

データヘルス計画

第2期計画書

最終更新日：平成 30 年 09 月 25 日

コスモスイニシアグループ健康保険組合

STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	29369
組合名称	コスモスイニシアグループ健康保険組合
形態	単一
業種	不動産業、物品賃貸業

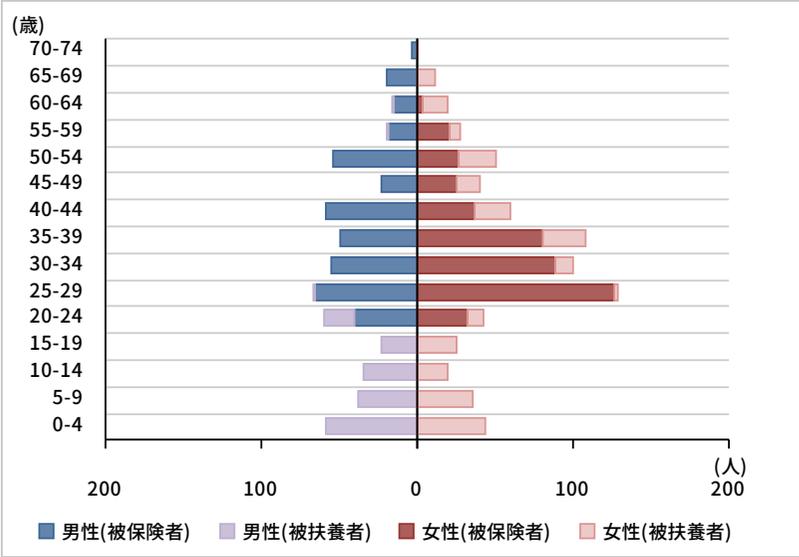
	平成30年度見込み	平成31年度見込み	平成32年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	848名 男性47.8% (平均年齢41.07歳) * 女性52.2% (平均年齢35.48歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	1,149名	-名	-名
適用事業所数	5カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	13カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	75%o	-%o	-%o

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度見込み		平成31年度見込み		平成32年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	0	1	-	-	-	-
	保健師等	1	0	-	-	-	-

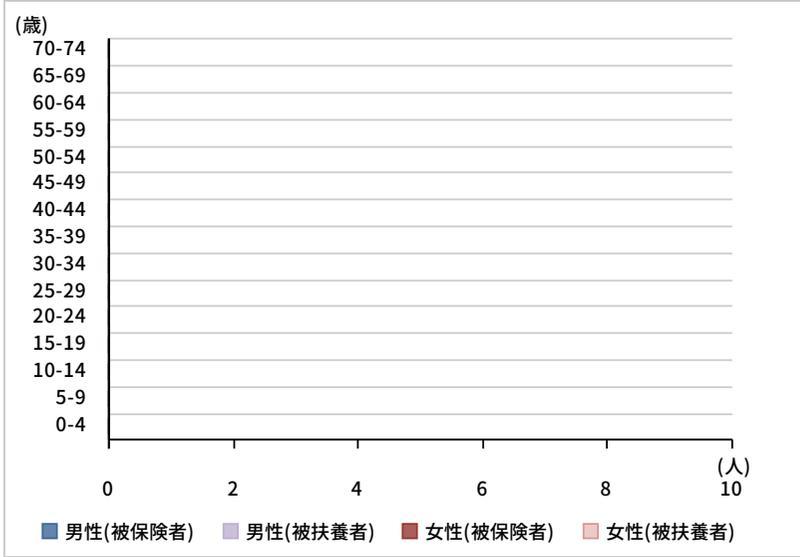
		第2期における基礎数値	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数 ÷ 特定健康診査対象者数)	全体	335 / 374 = 89.6 %	
	被保険者	265 / 273 = 97.1 %	
	被扶養者	70 / 101 = 69.3 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数 ÷ 特定保健指導対象者数)	全体	5 / 39 = 12.8 %	
	被保険者	5 / 31 = 16.1 %	
	被扶養者	0 / 8 = 0.0 %	

		平成30年度見込み		平成31年度見込み		平成32年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	0	0	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	900	1,061	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	9,915	11,692	-	-	-	-
	疾病予防費	21,583	25,452	-	-	-	-
	体育奨励費	2,600	3,066	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	430	507	-	-	-	-
	小計 …a	35,428	41,778	0	-	0	-
経常支出合計 …b	418,821	493,893	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	8.46		-		-		

平成30年度見込み



平成31年度見込み



平成32年度見込み



男性（被保険者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	40人	25～29	65人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	55人	35～39	50人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	59人	45～49	23人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	54人	55～59	18人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	15人	65～69	20人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	4人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	0人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	32人	25～29	126人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	88人	35～39	81人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	37人	45～49	25人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	27人	55～59	21人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	3人	65～69	0人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	59人	5～9	38人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	34人	15～19	23人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	19人	25～29	1人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	0人	35～39	0人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	0人	45～49	0人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	0人	55～59	1人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	1人	65～69	0人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	44人	5～9	36人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	20人	15～19	25人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	10人	25～29	2人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	11人	35～39	28人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	23人	45～49	15人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	24人	55～59	7人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	16人	65～69	12人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	0人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

1. 小規模な健保組合である。
2. 男女比がほぼ同率である。
3. 適用事業所は首都圏と関西圏に分かれているが、約9割の被保険者が首都圏勤務である。
4. 加入者構成は30歳代がボリュームゾーンである。
5. 健保専属の医療専門職は不在である。
6. 扶養率は、0.58%である

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

- ・生活習慣病のリスク保有者への対策は、特定保健指導のみであり、被保険者のみが対象である。
- ・胃部内視鏡検査や婦人科健診等、当健保で注力している疾病予防策については、さらに受診率を高める必要がある。
- ・カラダ測定会等の任意参加型イベントへの参加者はリピーターが多い。また、事業所や拠点によって参加人数にばらつきが大きい。
- ・禁煙補助の利用者が少ない。
- ・フィットネス補助の利用者が固定化されている。

事業の一覧

職場環境の整備

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関紙
保健指導宣伝	福利厚生各種メニュー
保健指導宣伝	ポイント制

個別の事業

特定健康診査事業	特定健診
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	カラダ測定会
保健指導宣伝	ジェネリック差額通知
疾病予防	婦人科健診
疾病予防	歯科健診
疾病予防	インフルエンザ予防対策
疾病予防	禁煙支援
疾病予防	特定健診(被保険者)
疾病予防	特定健診(被扶養者)
疾病予防	定期健康診断(被保険者)
疾病予防	定期健康診断(被扶養者)
疾病予防	胃部検査(バリウムまたは胃カメラ)
体育奨励	フィットネス補助
体育奨励	スポーツ活動補助

事業主の取組

1	定期健康診断
2	健康診断事後措置に伴う個別指導
3	ストレスチェック

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備													
加入者への意識づけ													
保健指導宣伝	2	機関紙	【目的】 健保事業、保健事業の周知、情報発信、健康意識の醸成 【概要】 機関紙(健保の運営、収支、保健事業、健康情報等)の発行	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	202	機関紙発行 年2回 会社経由で配布	・タイムリーな情報を提供し、加入者のインタビューなど親しみやすい誌面作りを行っている。	・被保険者に配布するが、被扶養者まで行き届いているか不明である。	5
	2	福利厚生各種メニュー	【目的】 ポピュレーション・アプローチ施策をタイムリーかつ効果的に展開し、被保険者の参加促進や健康活動の活性化を図る。 【概要】 休養、リフレッシュ、運動促進、その他、家庭の健康づくりやコミュニケーション、暮らしをサポートするWEBツール。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	5,960	【利用者】 ホームページ登録率：52.5% フィットネス補助申請者：平均10名/月 宿泊補助消化率：20.5%	・WEBにて直接申込みや申請ができるので、利用に時間、場所を選ばない。	・利用者の固定化。	2
	2	ポイント制	【目的】 健康的な生活習慣の定着化。 【概要】 健康的な取り組み、行動に対してポイントを付与。保有ポイントは、健康関連メニューの利用や交換ができる。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	46	ポイント消化率：74.7%	・ポイントとなる健康的な取り組みは、生活習慣から運動実績まで幅広い内容としているため、特別な運動をしていない人でも申請しやすい。 ・WEBにて直接申請ができるので、手間が少なく申請する習慣がしやすい。	・利用者の固定化。	3
個別の事業													
特定健康診査事業	3	特定健診	予算上は「疾病予防」として実施	-	-	-	-	-	--				-
特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】 生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善。 【概要】 メタボリックシンドロームのリスク者に対する生活習慣改善のためのサポートプログラムを実施。リスクの度合い、服薬状況、これまでの参加回数、改善状況などを考慮し、対象者(必須・任意)を抽出。	被保険者	全て	男女	40～74	基準該当者	365	実施者数：10名 ※全員終了 実施率：19.2%	・委託先事業者の推進力、指導力による。	・保健指導等の取り組みへの参加に消極的な者が多い。	1
保健指導宣伝	5,6	カラダ測定会	【目的】 健診前の動機づけ支援。現在の自分の体の状態が理想に対してどうであるかを知り、アドバイスを元に目標を立て、生活習慣の見直しを行うきっかけとする。 【概要】 参加費無料。体成分測定、体力測定をはじめとする各種測定、健康カウンセリング、レッスン体験、マッサージ体験等を事業所で実施。開催場所より遠方エリアの勤務者は、各自スポーツクラブにて行う。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	738	参加者 87名(定員あり) 参加率 12%	・職場での実施による利便性の良さ。 ・毎年実施内容を見直し、リピーターを獲得。	・実施日が東西各1日間であり、開催地が2か所であること。 ・事業所ごとの参加者比率に偏りがある。	1
	8	ジェネリック差額通知	【目的】 調剤費削減のため。 【概要】 ジェネリック医薬品転換後の負担薬剤費の差額が300円以上の加入者へジェネリック医薬品利用促進のお知らせ文書を送付。(一部を除く)	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	基準該当者	104	通知数：76件 利用率：健保全体で46.8%から58.1%に増加	・実際に差額を表示することで、加入者に関心を持たせることができたこと。 ・情報提供により、加入者のジェネリック医薬品についての理解が進んだこと。	・ジェネリック医薬品に対する不安や恐怖感。 ・実際、加入者負担のない子供の調剤費を通知の対象にして効果があるか。	3

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
疾病予防	3	婦人科健診	【目的】 婦人科疾患の早期発見・早期治療。 【概要】 定期健康診断の無償メニューとして実施。女性特有のがん検査として、子宮頸部細胞診とマンモグラフィもしくは乳房エコーを提供。	被保険者 被扶養者	全て	女性	19 ～ 74	全員	4,385	<子宮頸がん検査> 被保険者：受診者数269名／受診率72.3% 被扶養者：受診者数79名／受診率50.3% <乳がん検査> 被保険者：受診者数309名／受診率83.1% 被扶養者：受診者数95名／受診率60.5%	・自己負担額がないこと。	・婦人科健診への抵抗感。 ・健診の必要性の低意識。	3
	3	歯科健診	【目的】 う歯・歯周病等の予防、早期発見、早期治療。 【概要】 無料で受診可。事業所内(東京・大阪)で歯科健診を実施。	被保険者	全て	男女	18 ～ 74	全員	0	受診者数 93名(定員あり) 受診率 13.2%	・職場での実施による利便性の良さ。 ・毎年健診内容を見直し、リピーターを獲得。	・実施日が東西各1日間であること。 ・事業所ごとの参加者比率に偏りがある。	1
	3	インフルエンザ予防対策	【目的】 インフルエンザの感染と重症化予防。職場内流行の抑制。 【概要】 事業所または医療機関等で予防接種を受けた者へ費用の一部を補助。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ～ 74	全員	293	利用者 293名 利用率 39.4%	・職場での実施による利便性の良さ。	・補助制度についての周知不足。 ・予防接種の必要性の低意識。	1
	5	禁煙支援	【目的】 喫煙による疾病予防、受動喫煙の予防。 【概要】 禁煙外来を受診して、規定のプログラムを終了した者に、費用の一部を補助。	被保険者 被扶養者	全て	男女	20 ～ 74	基準該当者	0	利用者 0名	-	・喫煙者の禁煙に対する意欲の低さ。 ・補助制度の周知不足。	1
	3	特定健診(被保険者)	【目的】 加入者の健康状況の把握。 【概要】 事業主が行う定期健診と併せて共同実施。生活習慣病に関連する検査項目で構成し、メタボリックシンドロームリスク者のスクリーニングを行う。	被保険者	全て	男女	40 ～ 74	全員	5,745	受診者：270名 受診率：98.2%	・全員受診必須としているため。 ・自己負担額なし。	・受診後フォローや再検査、治療への誘導が本人または保健師任せになっており、不十分である。	4
	3	特定健診(被扶養者)	【目的】 加入者の健康状況の把握。 【概要】 生活習慣病に関連する検査項目で構成し、メタボリックシンドロームリスク者のスクリーニングを行う。	被扶養者	全て	男女	40 ～ 74	全員	2,177	受診者：70名 受診率：69.3%	・自宅宛てに案内冊子を送付。 ・自己負担額なし。	・受診勧奨を行っていない。	3
	3	定期健康診断(被保険者)	【目的】 加入者の健康状況の把握。 【概要】 事業主と共同実施。年齢に関わらず、生活習慣病に関連する検査項目で構成し、メタボリックシンドロームリスク者のスクリーニングを行う。	被保険者 被扶養者	全て	男女	19 ～ 39	全員	1,473	受診者：429名 受診率：97.7%	・全員受診必須としているため。 ・自己負担額なし。	・受診後フォローや再検査、治療への誘導が本人や保健師に任せており、不十分な可能性がある。	4
	3	定期健康診断(被扶養者)	【目的】 加入者の健康状況の把握。 【概要】 年齢に関わらず、生活習慣病に関連する検査項目で構成。	被扶養者	全て	男女	19 ～ 39	全員	502	受診者：39名 受診率：48.1%	・自宅宛てに案内冊子を送付。 ・自己負担額なし。	・受診勧奨を行っていない。 ・受診後フォローや再検査、治療の誘導を行っていない。	2
	3	胃部検査(バリウムまたは胃カメラ)	【目的】 胃がんの早期発見・早期治療。 【概要】 定期健康診断の無償メニューとして実施。	被保険者 被扶養者	全て	男女	30 ～ 74	全員	2,933	受診者数 150名 受診率 27.2%	・自己負担額がないこと。	・健診期間内での予約の取りにくさ。 ・胃カメラやバリウムに対する恐怖心。	1
体育奨励	8	フィットネス補助	【目的】 加入者の運動習慣の機会提供および促進。 【概要】 フィットネスクラブの利用料金の一部を補助。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ～ 74	全員	337	利用者 平均約12名/月	・対象施設が多い。 ・週1回程度通う者にとって適当な補助であること。	・利用者の固定化。 ・新規利用者が少ない。 ・補助制度の周知不足。	1
	8	スポーツ活動補助	【目的】 主に運動習慣のない加入者への運動機会の提供および促進。 【概要】 被保険者1名以上を含む3名以上で構成された任意団体が業務時間外に行うスポーツ活動に対し、活動費用の一部を補助。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ～ 74	全員	311	利用者数：86名 利用率：11.5%	・対象のスポーツ活動の内容を幅広く設定している点。 ・複数人数で行うスポーツを対象としているため、利用層の幅が広がった点。	制度開始から間もないため、積極的に認知活動を行う必要がある。	1

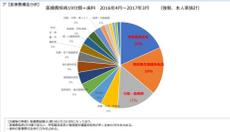
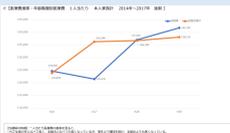
注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 訪問指導 8. その他

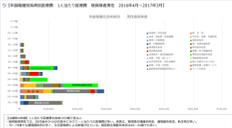
注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

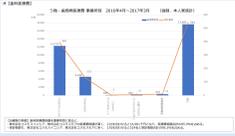
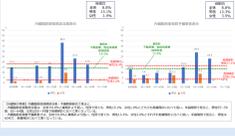
事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	19 ～ 70	受診率 95.4%	・勤務時間中の受診可。 ・契約医療機関の拡大。 ・予約、受診の進捗確認を行う。	-	有
健康診断事後措置に伴う個別指導	要精密検査、要治療者の検査及び治療結果の把握。	被保険者	男女	19 ～ 70	健診実施後2～3ヶ月の間に、産業医面談、または保健師からの受診確認等実施。	・産業医と保健師が連携し、随時再検査案内とその後のフォロー体制が整っているため。	・健診結果のデータ化を外部委託している関係もあり、結果の回収に多少時間を要すること。	無
ストレスチェック	現在のストレス状態の把握	被保険者	男女	18 ～ 74	実施率 100% 毎年1回実施。一定以上の結果の従業員に対しての産業医もしくは保健師による面談実施。組織分析。	・導入時の事前周知活動と、回答の督促による。	・実施時期や頻度が適正か検討が必要。	無

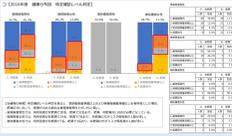
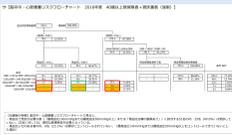
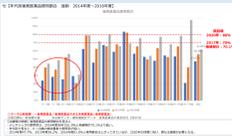
STEP1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		ア【医療費構造分析】	医療費・患者数分析	<p>医療費総額は1億1881万1510円になっており、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費疾病19分類で見ると、呼吸器系疾患と腎尿路生殖器系疾患が多く全体の36%を占める。 ・歯科の医療費は全体の15%を占める。 <p>医療費疾病19分類で見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系疾患が最も多く、次いで、腎尿路生殖器系疾患、3番目に損傷・中毒・外因性が多くなっており、それぞれ、他健保計に比べても多いことがわかる。 ・新生物は他健保計に比べ少ないが、4番目に医療費が高い。 ・生活習慣病である、循環器系疾患、内分泌・栄養・代謝疾患が他健保計に比べが少ない。 <p>医療費順に119分類疾病を上位30位まで見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎不全の受診者数は4名と少ないが、医療費総額が一番高く、1719万1千円である。 ・他の損傷・外因性の医療費総額が609万2千円と二番目に多い。受診者数は99名である。 ・アレルギー性鼻炎、急性上気道感染症等の呼吸器系疾患や、屈折・調節障害等の眼・付属器疾患は、それぞれ受診者数が200名を超え多いものの、医療費総額は多くない。
イ		イ【医療費推移・年齢階層別医療費 1人当たり】	医療費・患者数分析	<p>一人当たり医療費の推移を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27は他の年と比べて低く、全組合と比べても低くなっているが、翌年より増加を続け、全組合よりも高くなっている。 <p>一人当たり医療費を年齢階層別で見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の全年齢の合計は、全組合集計が属する規模と比べて低く122千円である。 ・特に50～54歳、60～64歳で全組合集計、自組合が属する規模の組合よりも一人当たり医療費が高くなっている。 <p>被扶養者の全年齢の合計は、全組合集計、自組合が属する規模の組合と比べて高く、162千円である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～14歳で、全組合集計、自組合が属する規模の組合よりも一人当たり医療費が高くなっている。特に、55～59歳では突出して高くなっている。

ウ		ウ【年齢階層別疾病医療費 1人当たり医療費 被保険者男性・被保険者女性・被扶養者男性・被扶養者女性】	医療費・患者数分析	<p>1人当たり医療費を疾病19分類で見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者男性では、50代後半から60代前半にかけて一人当たりの医療費が多い。疾病は、腎尿路生殖器系疾患、循環器系疾患、新生物が多い。 ・70～74歳でも循環器疾患が多く、生活習慣病による影響が出ている。腎尿路生殖器系疾患は40～44歳でも多い。 <p>・被保険者女性では、50～54歳で特に一人当たりの医療費が多く、疾病分類別では、腎尿路生殖器系疾患、筋骨格系・結合組織疾患、損傷・中毒・外因性が多い。</p> <p>・新生物は、35～39歳、40～44歳で多い(乳房の悪性新生物が多い)。</p> <p>・被扶養者男性では、0～4歳、5～9歳で一人当たりの医療費が多く、疾病分類では呼吸器系疾患が多い。</p> <p>・50代では、精神・行動障害が多く、50～54歳は呼吸器系疾患でも医療費が高くなっている。</p> <p>・被扶養者女性では、55～59歳で突出して一人当たり医療費が高く、中でも腎尿路生殖器系疾患が飛び抜けて多い。</p> <p>・0～10代は呼吸系疾患が多い。</p> <p>・50代以降では、内分泌・栄養・代謝疾患、筋骨格系・結合組織疾患が多くなる。</p>
エ		エ【生活習慣病医療費】	医療費・患者数分析	<p>生活習慣病医療費の経年変化を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度以降に人工透析が発生したことがわかり、急激に医療費が上がっている。その他の疾患に関しては、2014年度以降微増の傾向となっている。 <p>生活習慣病の医療費を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性本人の医療費が高くなっている。特に、人工透析が突出して多く、糖尿病の重症化によることが予測される。次いで高血圧症、糖尿病医療費が高くなっている。 ・女性本人、女性家族では、高血圧症、高脂血症、糖尿病、人工透析で多く医療費が発生している。

<p>オ</p> 	<p>オ【歯科医療費】</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<p>歯科医療費を事業所別に見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社コスモスイニシア、株式会社コスモモアの医療費総額が高く、2社を合わせると16,961千円となり、医療費総額合計の95.9%を占める。 ・受診者数も、株式会社コスモスイニシア、株式会社コスモモアに多く、2社を合わせると524名と受診者数合計の96.3%を占める。 <p>1人当たり歯科医療費を事業所別に見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和コスモコンストラクションは受診者数が6名と少ないが、1人当たり医療費が一番高い。次いで、任意継続事業所の1人当たり医療費が高くなっている。事業所規模の大小に関わらず、施策を実施することが望ましい。 <p>1人当たり歯科医療費を年齢別に見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの年齢層でも、歯肉炎・歯周疾患で多く医療費がかかっている。 ・歯肉炎・歯周疾患の医療費は、特に5～9歳、70～74歳で高くなっているが、それ以外の年齢層では20代後半以降大きなばらつきがなく、どの年代でも医療費がかかっていることがわかる。
<p>カ</p> 	<p>カ【2015年度、2016年度 特定健診受診率 強制】</p>	<p>特定健診分析</p>	<p>特定健診受診率を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率は、本人・家族合計で90.6%となっており、単一健保計に比べて高く、国目標も達成している。 ・本人・家族合計で男性97.1%、女性84.5%となっており、女性は国目標より低い。特に、女性の60代以上の受診率が低い。 ・2016年度のKOSMO抽出データによると、被保険者の受診率は95.8%、被扶養者は70.5%であり、それぞれ単一健保計と比べて高い。
<p>キ</p> 	<p>キ【特定保健指導実施率 2015年度～2016年度】</p>	<p>特定保健指導分析</p>	<p>特定保健指導実施率を見ると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度と比較し、2016年度の実施率は上がっているが、積極的、動機付け共に、単一健保の国目標55%に満たない。 ・2016年度の女性での実施率は0となっている。
<p>ク</p> 	<p>ク【年齢階層別 特定保健指導実施状況】</p>	<p>特定保健指導分析</p>	<p>2016年度の特定保健指導実施状況を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的支援、動機付け支援共に対象者の母数は少なく、どの年代でも6名以下となっている。 ・特定保健指導対象者は、男性の方に多い。 ・女性では、積極的支援、動機付け支援共に利用者、終了者は0名となっている。
<p>ケ</p> 	<p>ケ【内臓脂肪症候群該当者・予備群者割合 2016年度】</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>内臓脂肪症候群該当者・予備群者割合で見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内臓脂肪症候群該当者は、全体で8.8%と業態計より低い。性別で見ても、男性15.1%、女性1.9%とどちらも他健保計に比べて低い。年齢層別で見ると、男性55～59歳、60～64歳、女性は55～59歳で他健保計に比べて高くなっている。 ・内臓脂肪症候群予備群者では、全体で8.8%と業態計より低い。性別で見ても、男性13.3%、女性3.9%とそれぞれ他健保計に比べて低い。年齢層別で見ると、男性は60代で、他健保計に比べて高くなっている。

コ		コ【健康分布図 特定健診レベル判定】	健康リスク分析	<p>特定健診レベル判定を見ると、受診勧奨基準値以上および保健指導基準値以上を有所見とした場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満区分において、肥満が占める割合は被保険者男性で45.3%と高い。 ・被保険者男性では、有所見者が非肥満で30名、肥満で32名おり、肥満、非肥満共に対応が必要となっている。 ・被保険者女性では、有所見者が非肥満で24名、肥満で7名おり、非肥満の方がリスク保有者の人数が多い。 ・被扶養者女性では、有所見者が非肥満で7名、肥満で3名おり、非肥満の方がリスク保有者の人数が多い。
サ		サ【2016年度 脳卒中／心筋梗塞・リスクフローチャート】	健康リスク分析	<p>脳卒中・心筋梗塞リスクフローチャートで見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧で受診が必要な者（「最高血圧140mmHgまたは最低血圧90mmHg以上」または「高血圧治療の服薬あり」）に該当する51名の内、25名（49.0%）は受診していない。25名に対しては、適切な医療受診が必要となっている。 ・高血圧レセのある者の内、6名（23.1%）は適切にコントロールされていない。（最高血圧140mmHgまたは最低血圧90mmHg以上をコントロールできていないとした場合）
シ		シ【2016年度 糖尿病・リスクフローチャート】	健康リスク分析	<p>糖尿病リスクフローチャートで見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病で受診が必要な者（「HbA1c6.5%以上」または「糖尿病治療の服薬あり」）に該当する18名の内、10名（55.6%）は受診していない。10名に対しては、適切な医療受診が必要となっている。 ・糖尿病レセのある者の内、7名（87.5%）は適切にコントロールされていない。（HbA1c6.5%以上をコントロールできていないとした場合）
ス		ス【年齢階層別喫煙率 2016年度 強制】	その他	<p>喫煙率を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性被保険者の喫煙率は40.5%で、他健保計・業態計に比べ高い。 ・女性被保険者の喫煙率は26.1%で、他健保計に比べ高い。55～59歳を除く年齢層で高い割合となっている。 ・女性被扶養者の喫煙率は20.0%で、他健保計に比べ高い。
セ		セ【年代別後発医薬品使用割合】	後発医薬品分析	<p>後発医薬品の使用割合を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックの使用率は、2016年度全体で61.8%と他健保計70.1%より低い。 ・年代別で見ると、0～19歳の被扶養者で使用率が低い。 ・2014年度47.7%、2015年度56.2%、2016年度61.8%と使用割合は上がってきているが、2020年の目標に向け、更なる施策が必要となる。

ソ

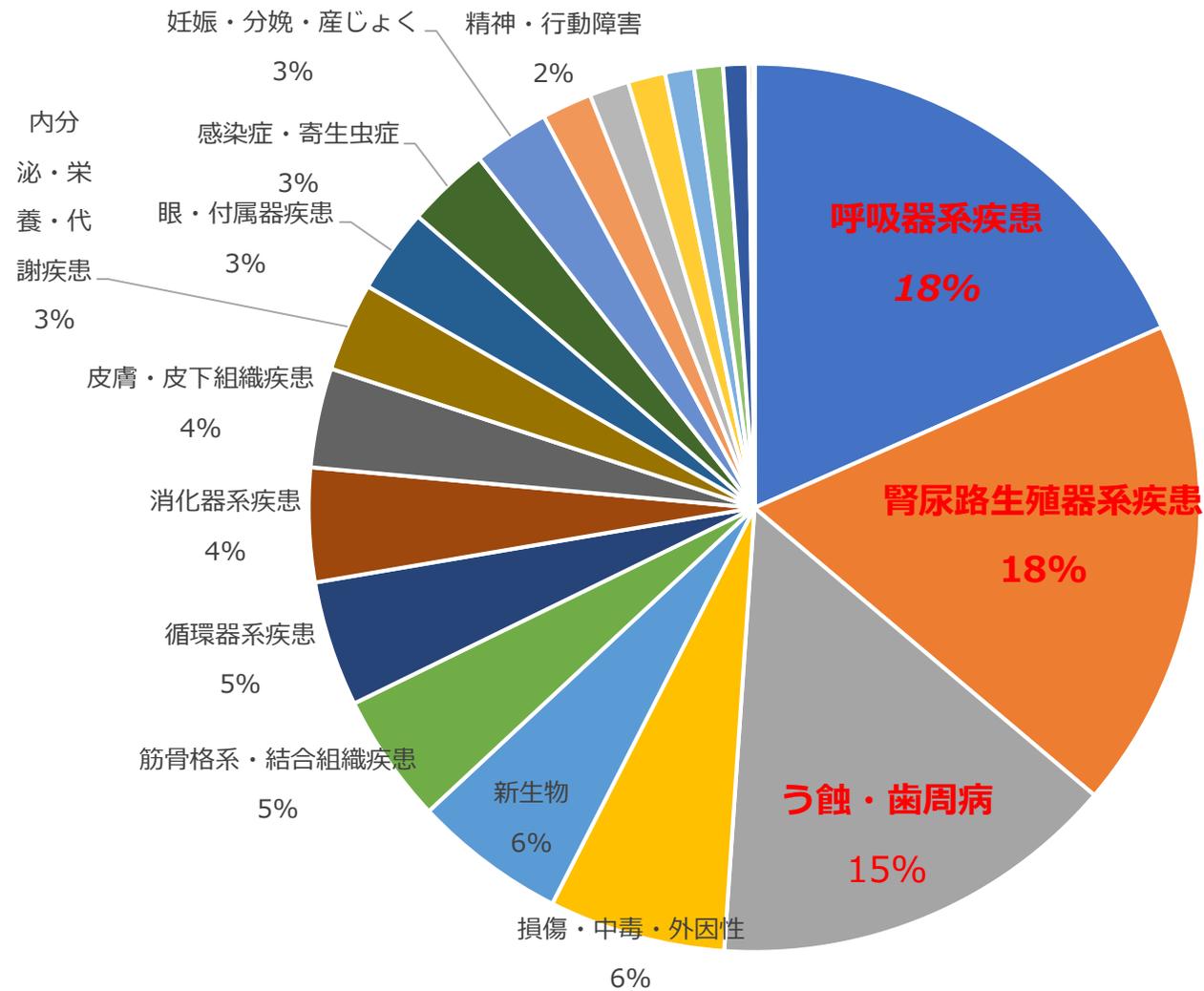


定期健康診断問診結果 強制 2017年度

その他

定期健康診断の問診を見ると、

- ・運動習慣のない人が8割を超えている。そのうち、適正と肥満で運動習慣がない人は68%である。将来の生活習慣病予防に運動促進を図る必要がある。
- ・20歳から体重が10kg増加は積極的支援対象者の83.3%に見られた。糖尿病リスクが増加する為、特定保健指導の強化、若年層の体重増加を防止する施策が必要である。
- ・生活習慣の改善の意志がある人は半数に近い。
- ・歯科検診または歯科の治療で1年以内に歯科検診を行った人は約半数である。
- ・十分な睡眠がとれていない人は、十分な睡眠がとれている人に比べて、健康と感じていない人が2倍である。

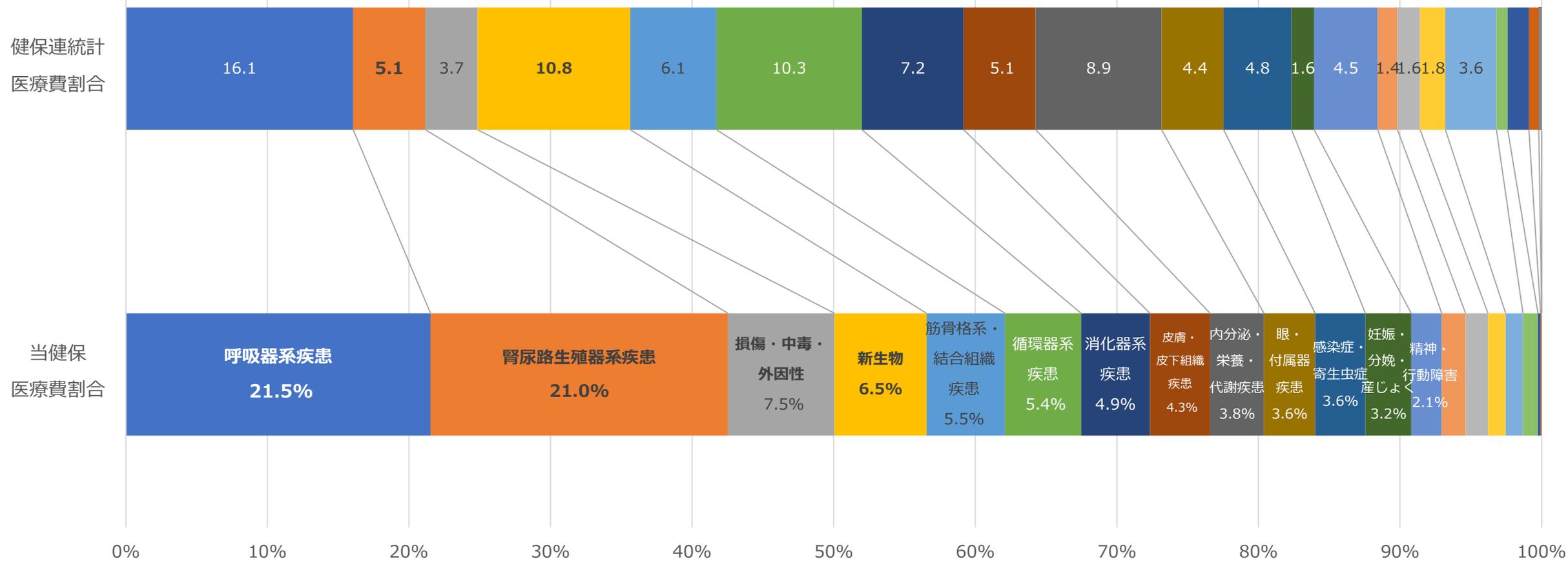


【当健保の特徴】医療費総額は1億1881万1510円になっており、

- ・医療費疾病19分類で見ると、呼吸器系疾患と腎尿路生殖器系疾患が多く全体の36%を占める。
- ・歯科の医療費は全体の15%を占める。

ア【医療費構造分析】

医療費疾病19分類（歯科除く） 2016年4月～2017年3月 （強制、本人家族計）

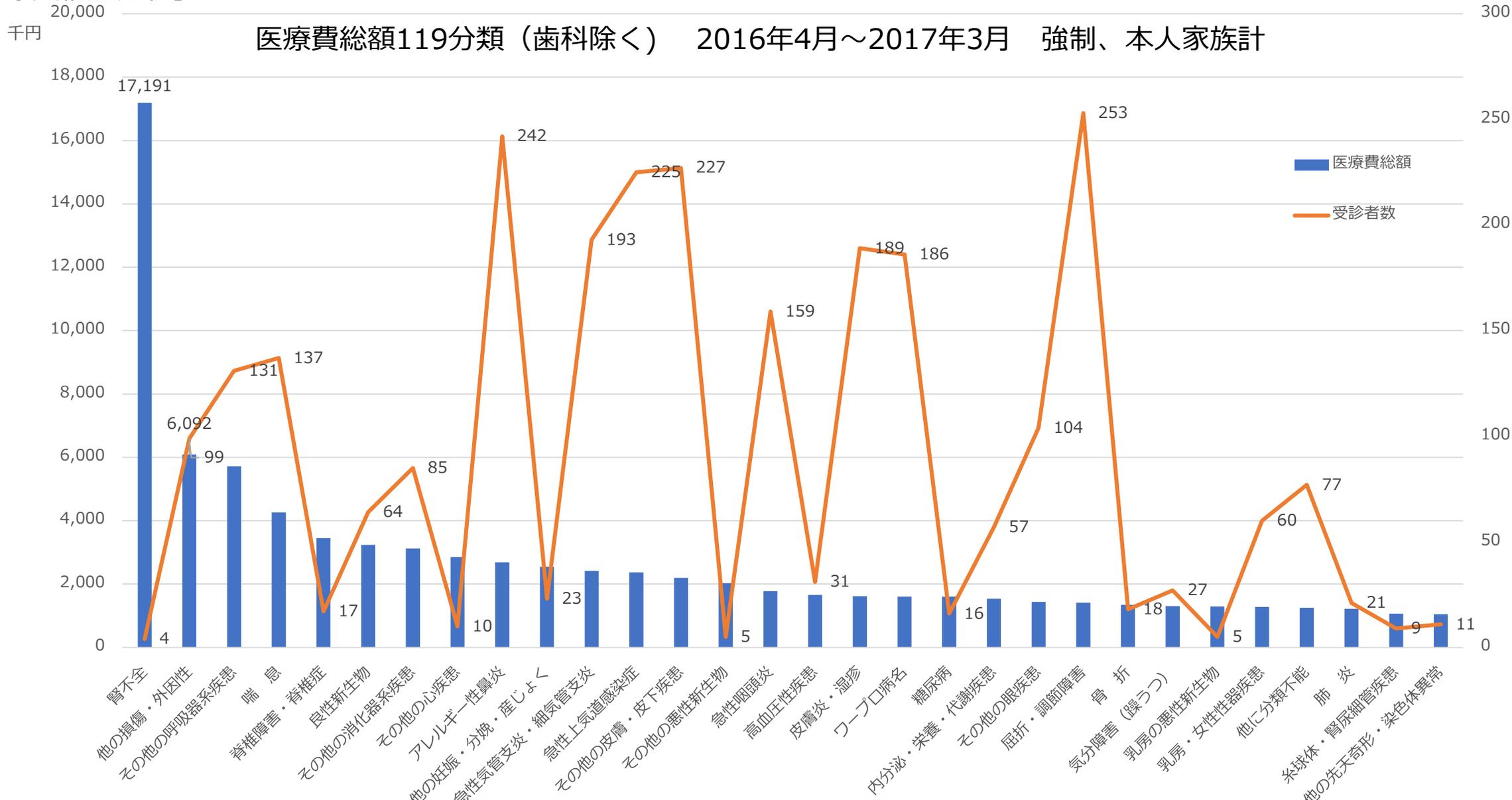


健保連続計データ：平成27年度健康保険組合医療費の動向に関する調査より

【当健保の特徴】医療費疾病19分類で見ると、

- ・呼吸器系疾患が最も多く、次いで、腎尿路生殖器系疾患、3番目に損傷・中毒・外因性が多く、それぞれ、他健保計に比べても多いことがわかる。
- ・新生物は他健保計に比べ少ないが、4番目に医療費が高い。
- ・生活習慣病である、循環器系疾患、内分泌・栄養・代謝疾患が他健保計に比べが少ない。

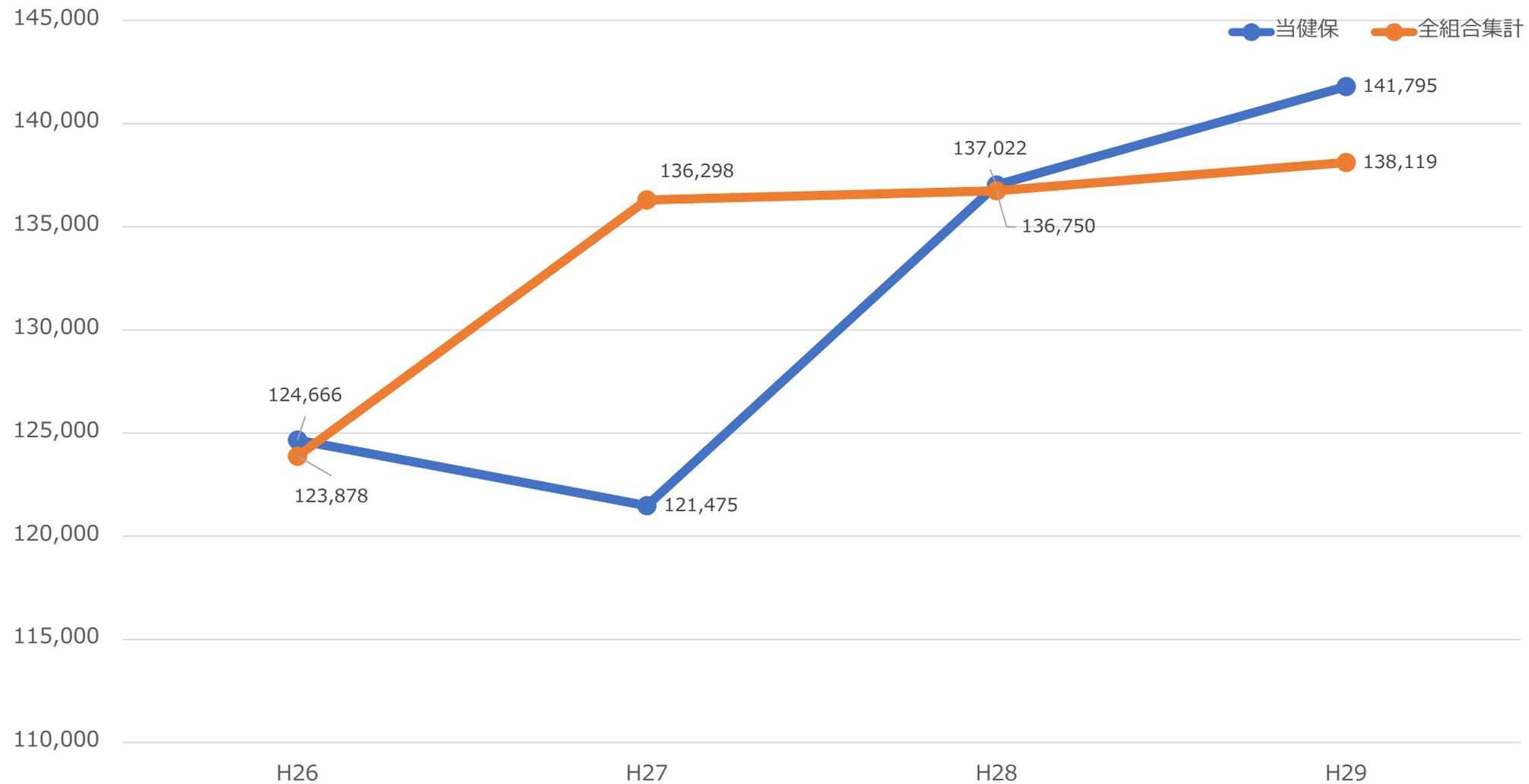
ア【医療費構造分析】



【当健保の特徴】医療費順に119分類疾病を上位30位まで見ると、

- ・腎不全の受診者数は4名と少ないが、医療費総額が一番高く、1719万1千円である。
- ・他の損傷・外因性の医療費総額が609万2千円と二番目に多い。受診者数は99名である。
- ・アレルギー性鼻炎、急性上気道感染症等の呼吸器系疾患や、屈折・調節障害等の眼・付属器疾患は、それぞれ受診者数が200名を超え多いものの、医療費総額は多くない。

イ【医療費推移・年齢階層別医療費 1人当たり 本人家族計 2014年～2017年 強制】

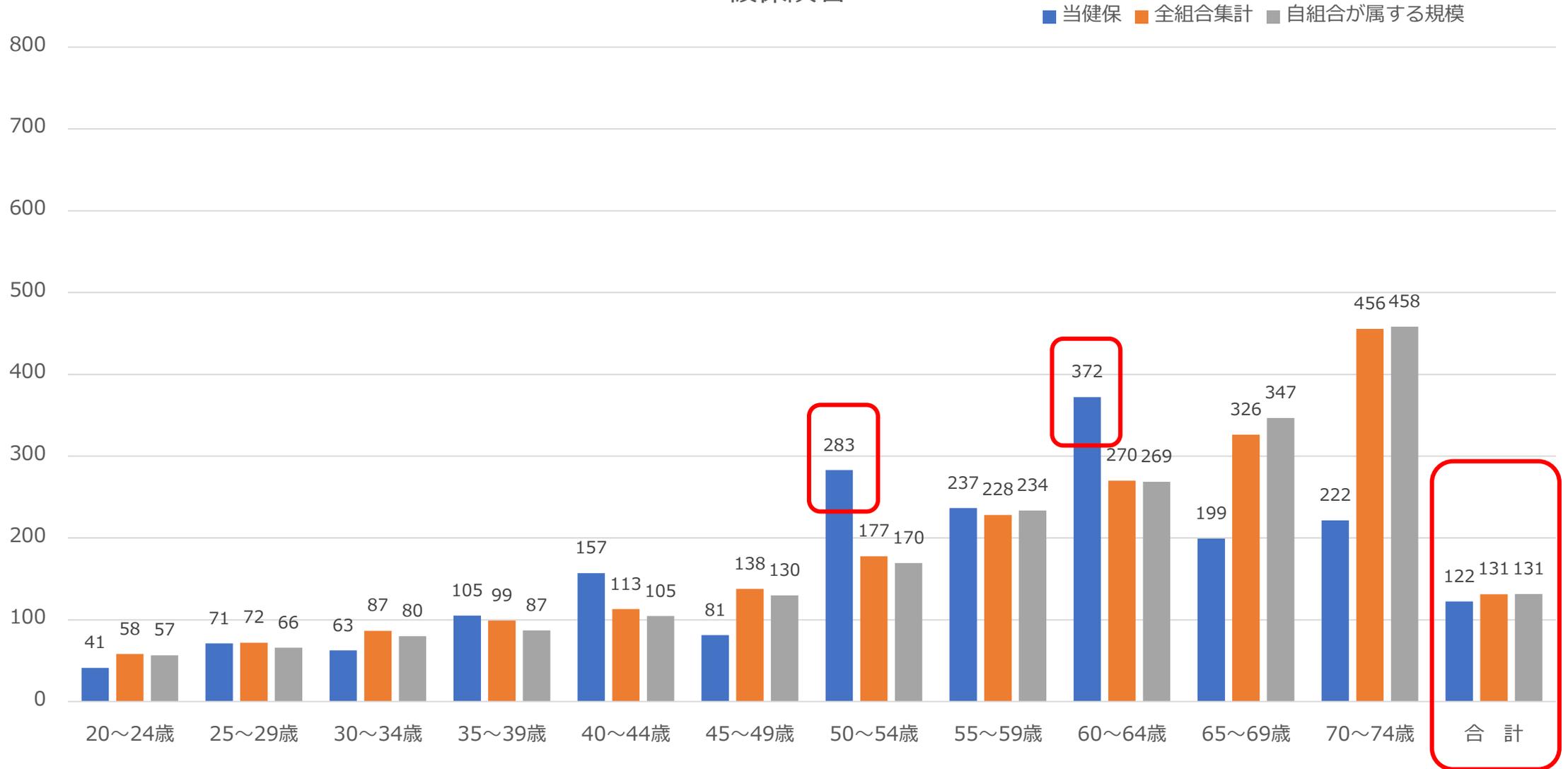


【当健保の特徴】一人当たり医療費の推移を見ると、

- ・ H27は他の年と比べて低く、全組合と比べても低くなっているが、翌年より増加を続け、全組合よりも高くなっている。

イ【医療費推移・年齢階層別医療費 1人当たり 被保険者 2016年4月～2017年3月 強制】

被保険者

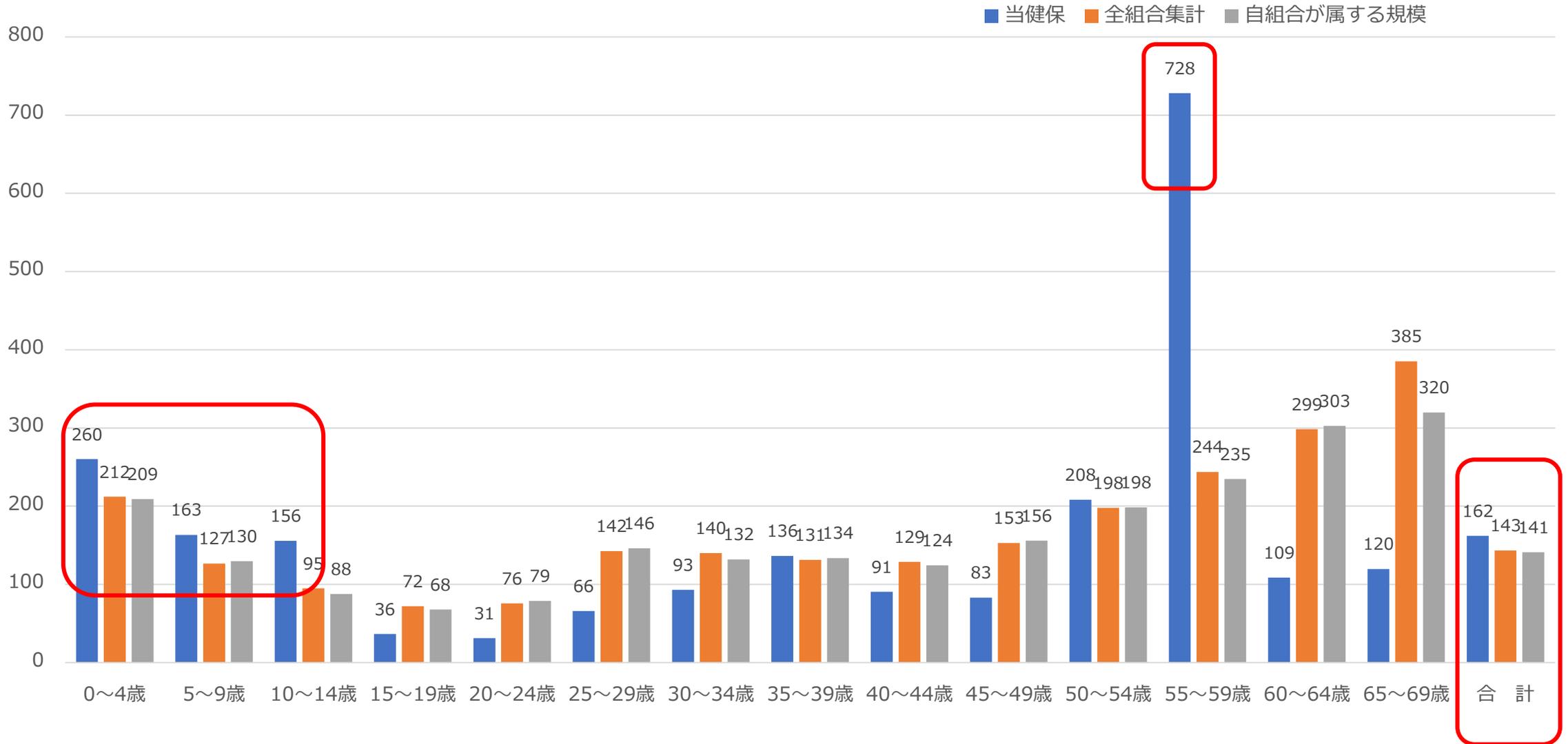


【当健保の特徴】一人当たり医療費を年齢階層別で見ると、

- ・被保険者の全年齢の合計は、全組合集計、自組合が属する規模の組合と比べて低く、122千円である。
- ・特に50～54歳、60～64歳で全組合集計、自組合が属する規模の組合よりも一人当たり医療費が高くなっている。

イ【医療費推移・年齢階層別医療費 1人当たり 被扶養者 2016年4月～2017年3月 強制】

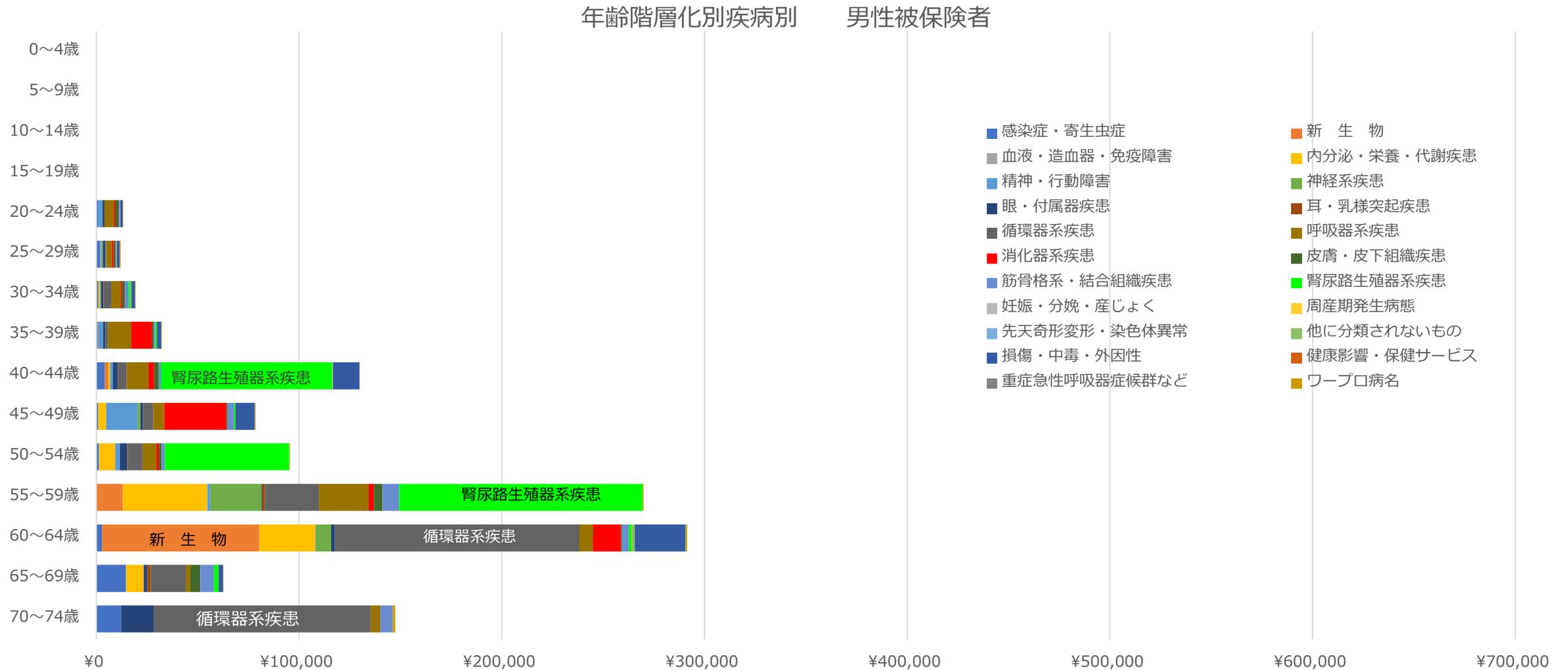
被扶養者



【当健保の特徴】一人当たり医療費を年齢階層別で見ると、

- ・被扶養者の全年齢の合計は、全組合集計、自組合が属する規模の組合と比べて高く、162千円である。
- ・0～14歳で、全組合集計、自組合が属する規模の組合よりも一人当たり医療費が高くなっている。特に、55～59歳では突出して高くなっている。

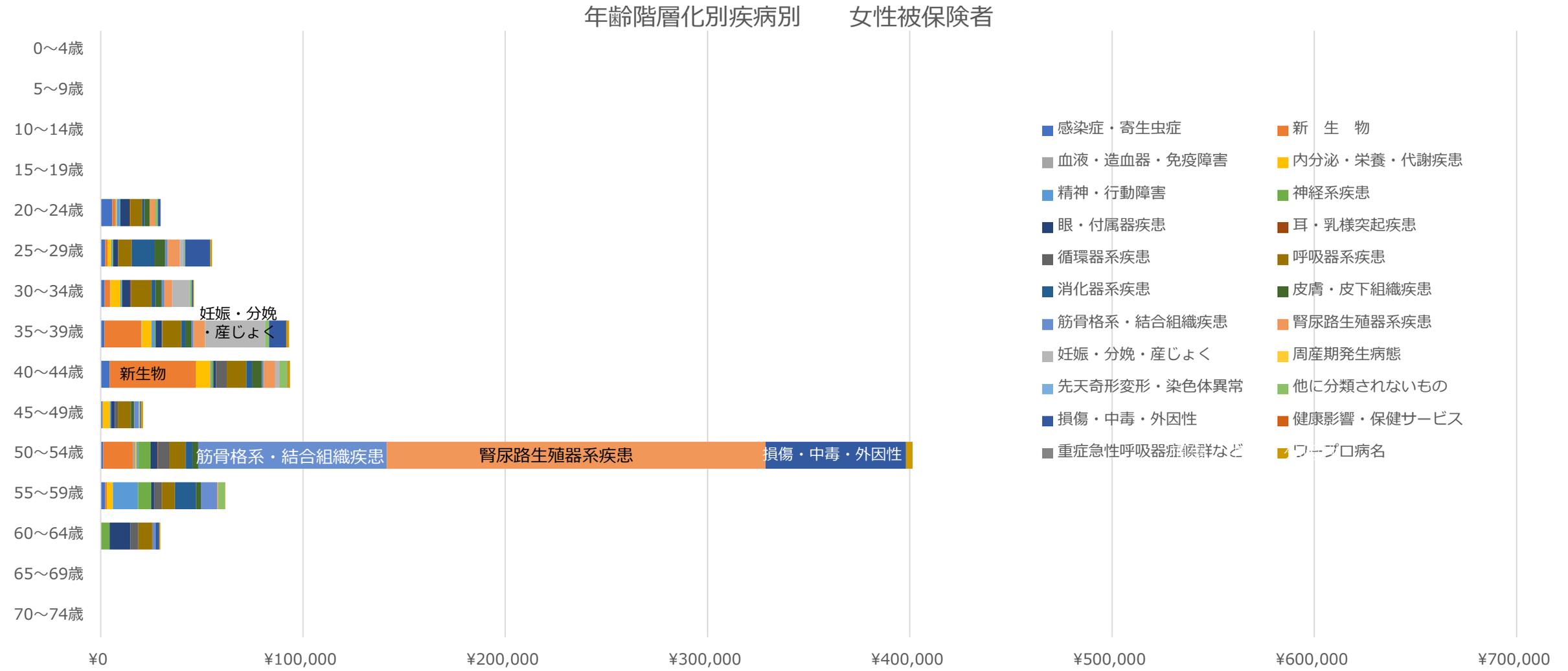
ウ【年齢階層別疾病別医療費 1人当たり医療費 被保険者男性 2016年4月～2017年3月】



【当健保の特徴】1人当たり医療費を疾病19分類で見ると、

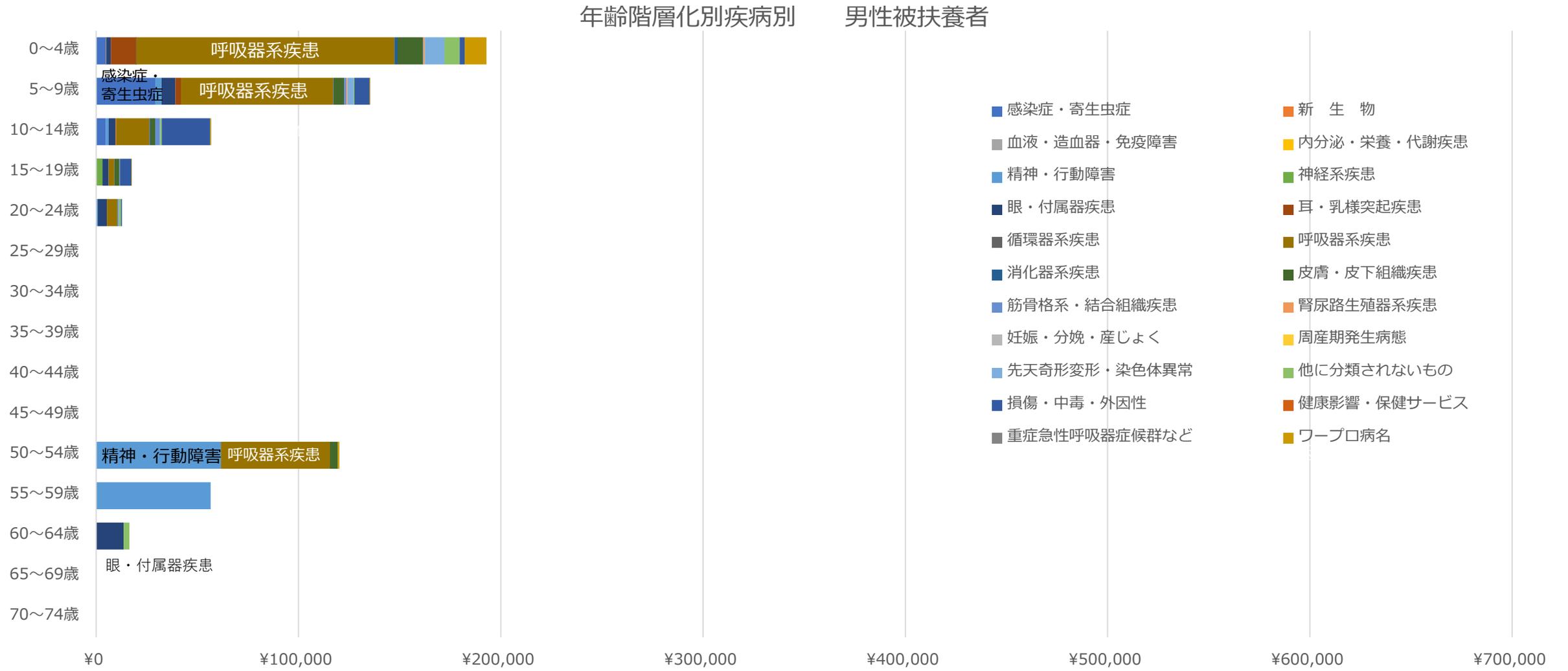
- ・被保険者男性では、50代後半から60代前半にかけて一人当たりの医療費が多い。疾病は、腎尿路生殖器系疾患、循環器系疾患、新生物が多い。
- ・70～74歳でも循環器疾患が多く、生活習慣病による影響が出ている。腎尿路生殖器系疾患は40～44歳でも多い。

ウ【年齢階層別疾病別医療費 1人当たり医療費 被保険者女性 2016年4月～2017年3月】



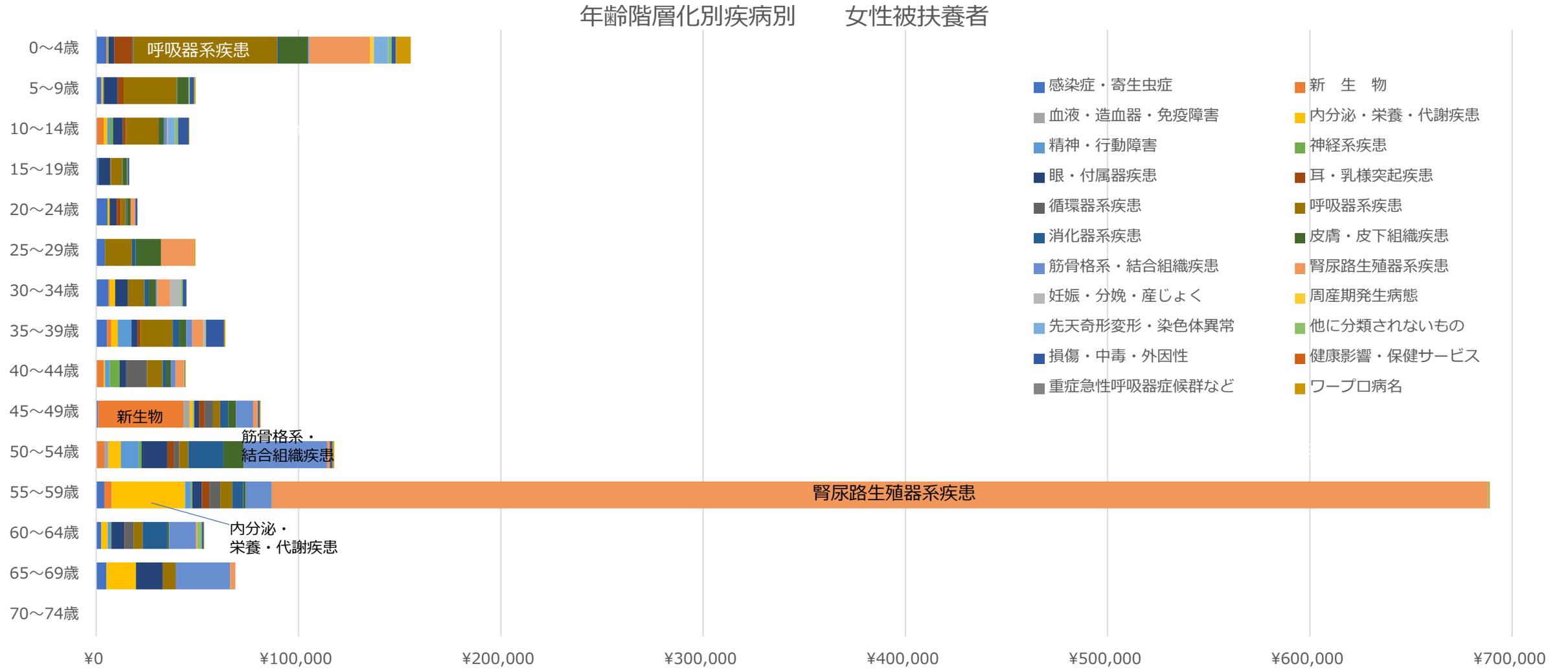
【当健保の特徴】 1人当たり医療費を疾病19分類で見ると、
 ・被保険者女性では、50～54歳で特に一人当たりの医療費が多く、疾病分類別では、腎尿路生殖器系疾患、筋骨格系・結合組織疾患、損傷・中毒・外因性が多い。
 ・新生物は、35～39歳、40～44歳で多い（乳房の悪性新生物が多い）。

ウ【年齢階層別疾病別医療費 1人当たり医療費 被扶養者男性 2016年4月～2017年3月】



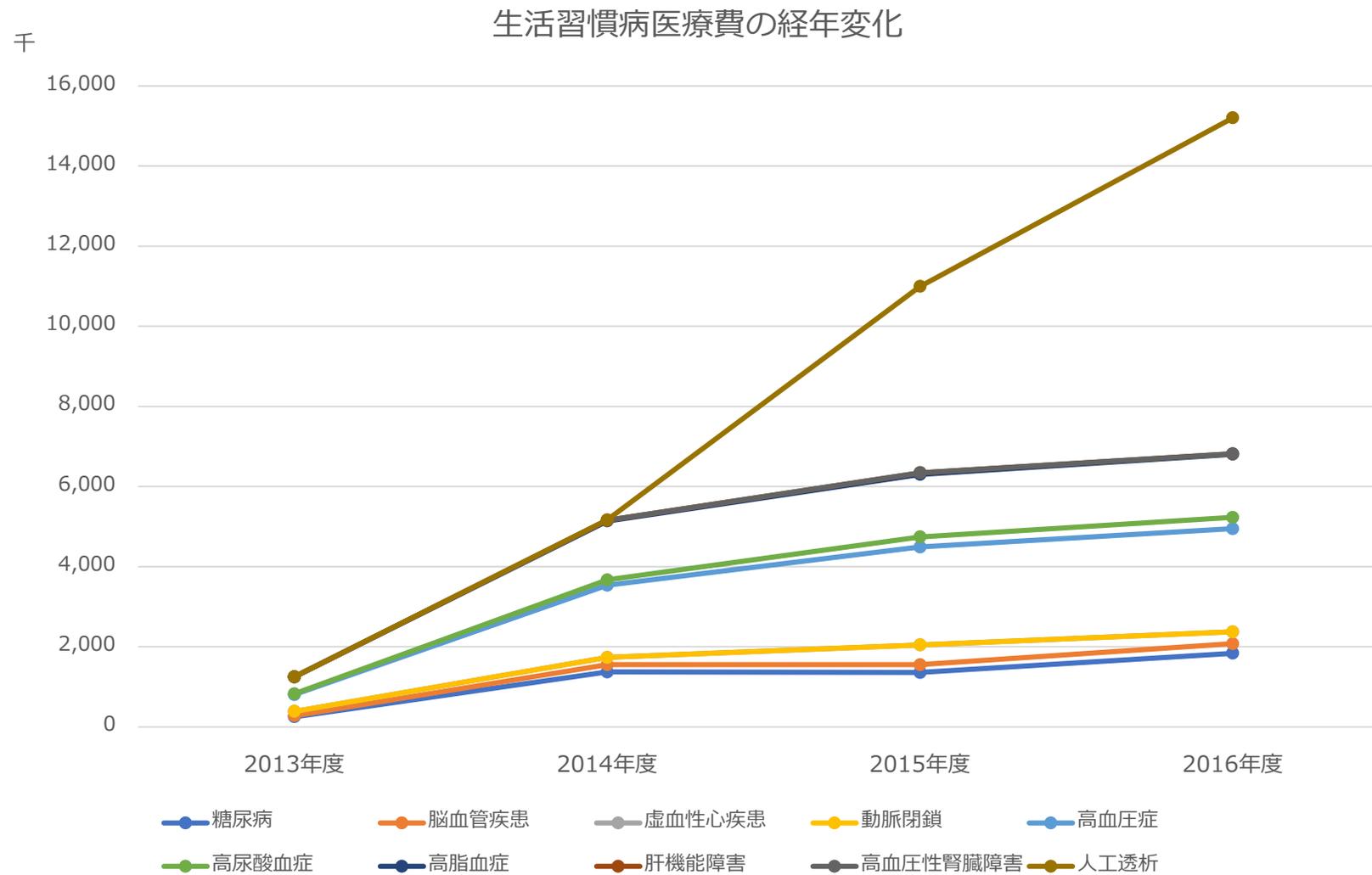
【当健保の特徴】1人当たり医療費を疾病19分類で見ると、
 ・被扶養者男性では、0～4歳、5～9歳で一人当たりの医療費が多く、疾病分類では呼吸器系疾患が多い。
 ・50代では、精神・行動障害が多く、50～54歳は呼吸器系疾患でも医療費が高くなっている。

ウ【年齢階層別疾病別医療費 1人当たり医療費 被扶養者女性 2016年4月～2017年3月】



【当健保の特徴】1人当たり医療費を疾病19分類で見ると、
 ・被扶養者女性では、55～59歳で突出して一人当たり医療費が高く、中でも腎尿路生殖器系疾患が飛び抜けて多い。
 ・0～10代は呼吸系疾患が多い。
 ・50代以降では、内分泌・栄養・代謝疾患、筋骨格系・結合組織疾患が多くなる。

工【生活習慣病医療費の経年変化 強制】



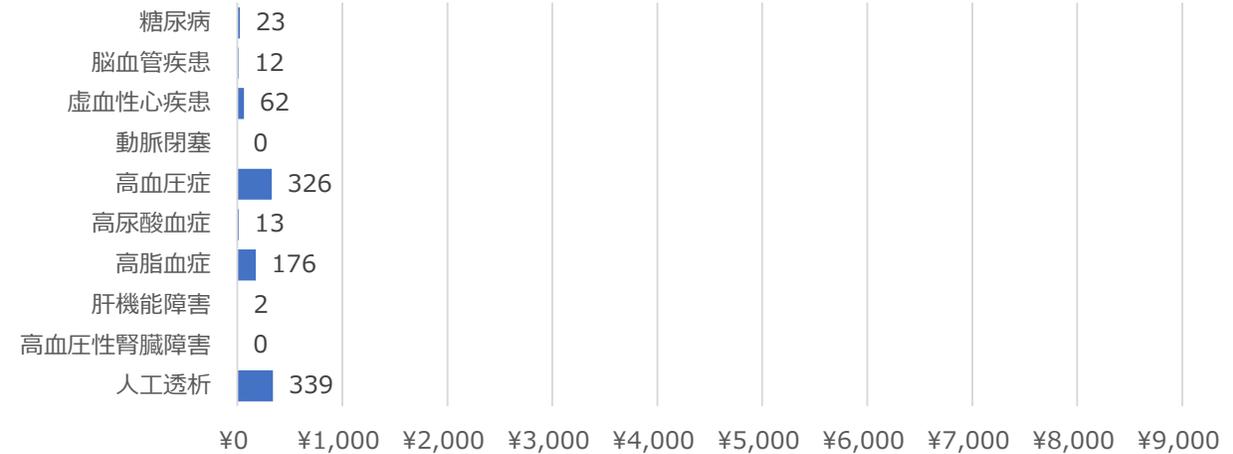
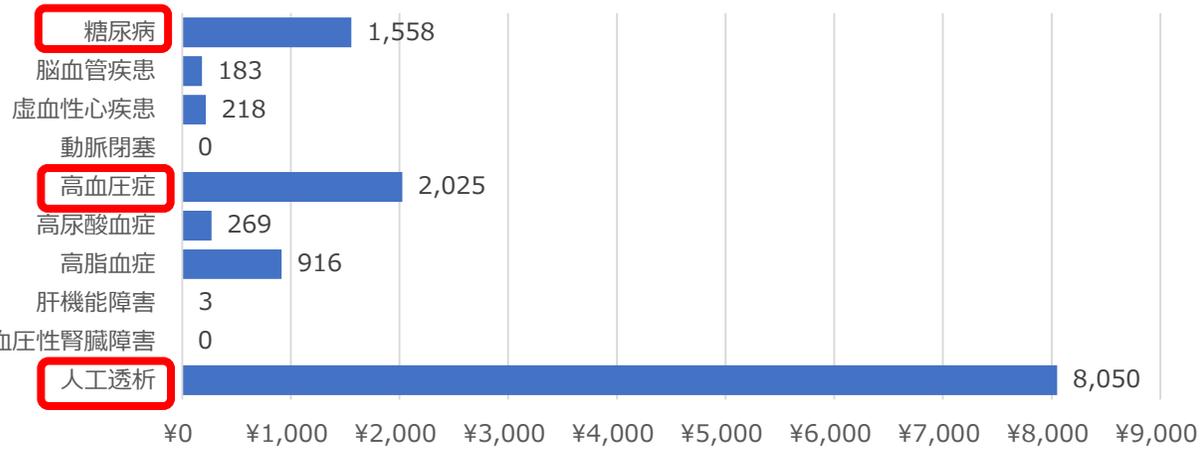
【当健保の特徴】生活習慣病医療費の経年変化を見ると、

・2015年度以降に人工透析が発生したことがわかり、急激に医療費が上がっている。その他の疾患に関しては、2014年度以降微増の傾向となっている。

工【生活習慣病 医療費 強制 2016年4月～2017年3月診療分】

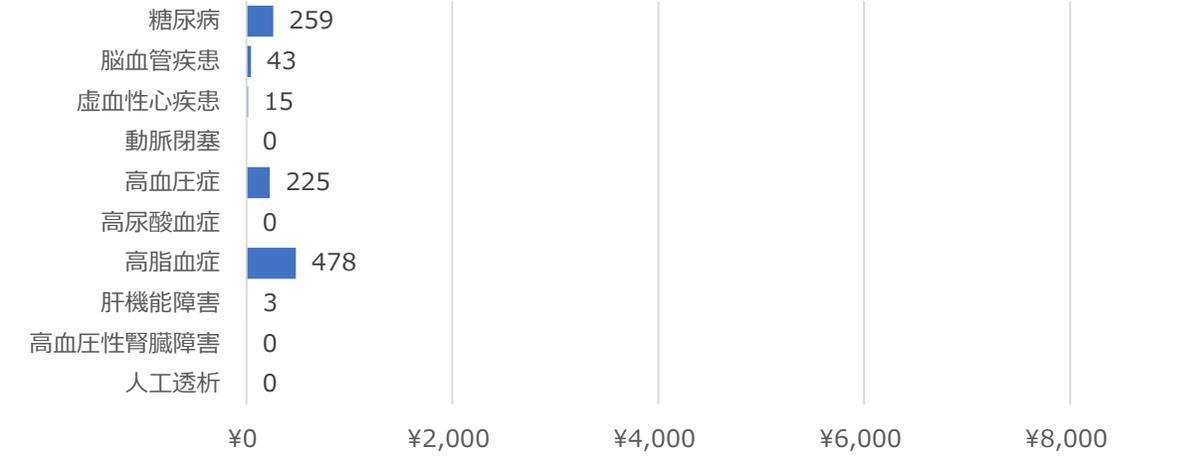
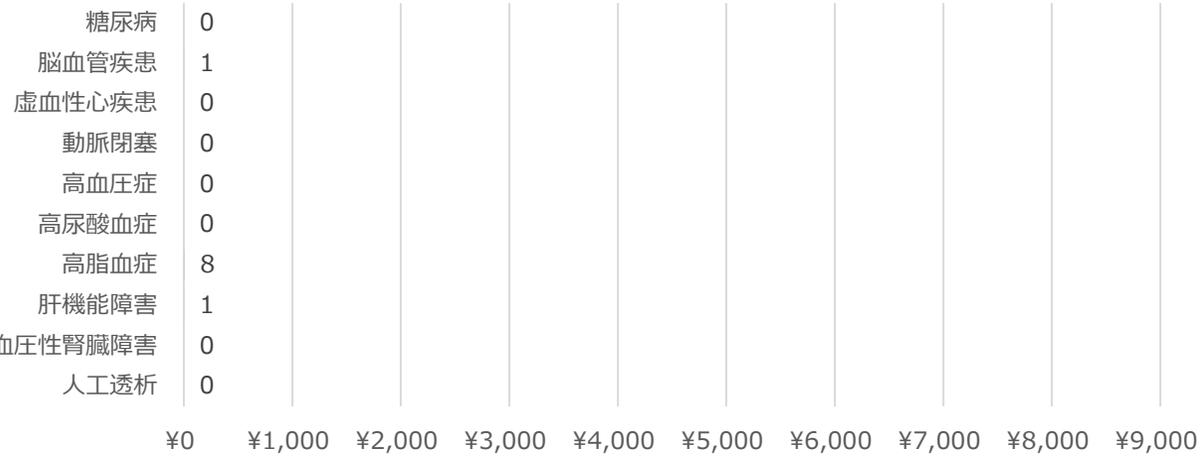
生活習慣病医療費 男性本人

生活習慣病医療費 女性本人



生活習慣病医療費 男性家族

生活習慣病医療費 女性家族

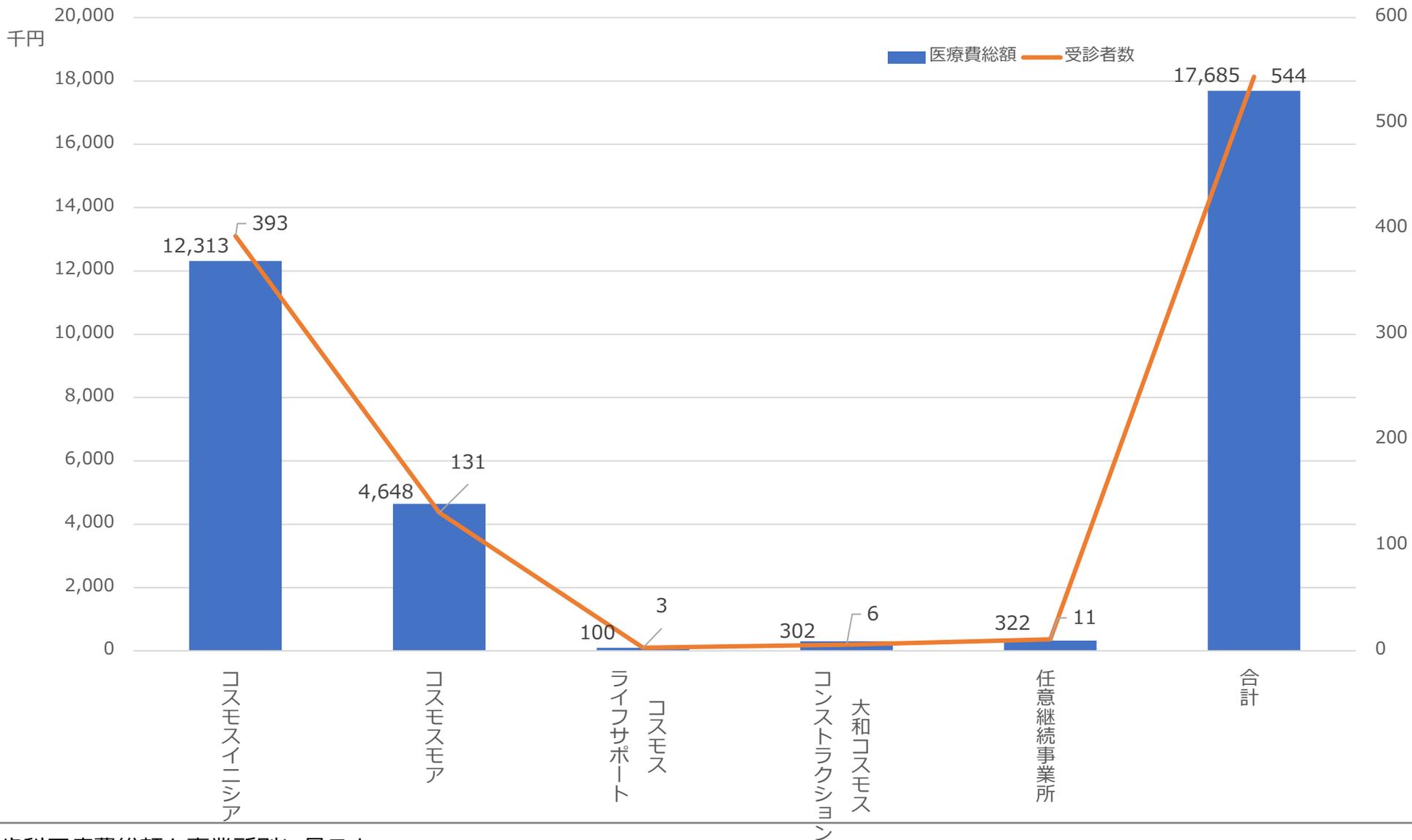


【当健保の特徴】生活習慣病の医療費を見ると、

- ・男性本人の医療費が高くなっている。特に、人工透析が突出して多く、糖尿病の重症化によることが予測される。次いで高血圧症、糖尿病医療費が高くなっている。
- ・女性本人、女性家族では、高血圧症、高脂血症、糖尿病、人工透析で多く医療費が発生している。

才【歯科医療費】

う蝕・歯周病医療費 事業所別 2016年4月～2017年3月 (強制、本人家族計)

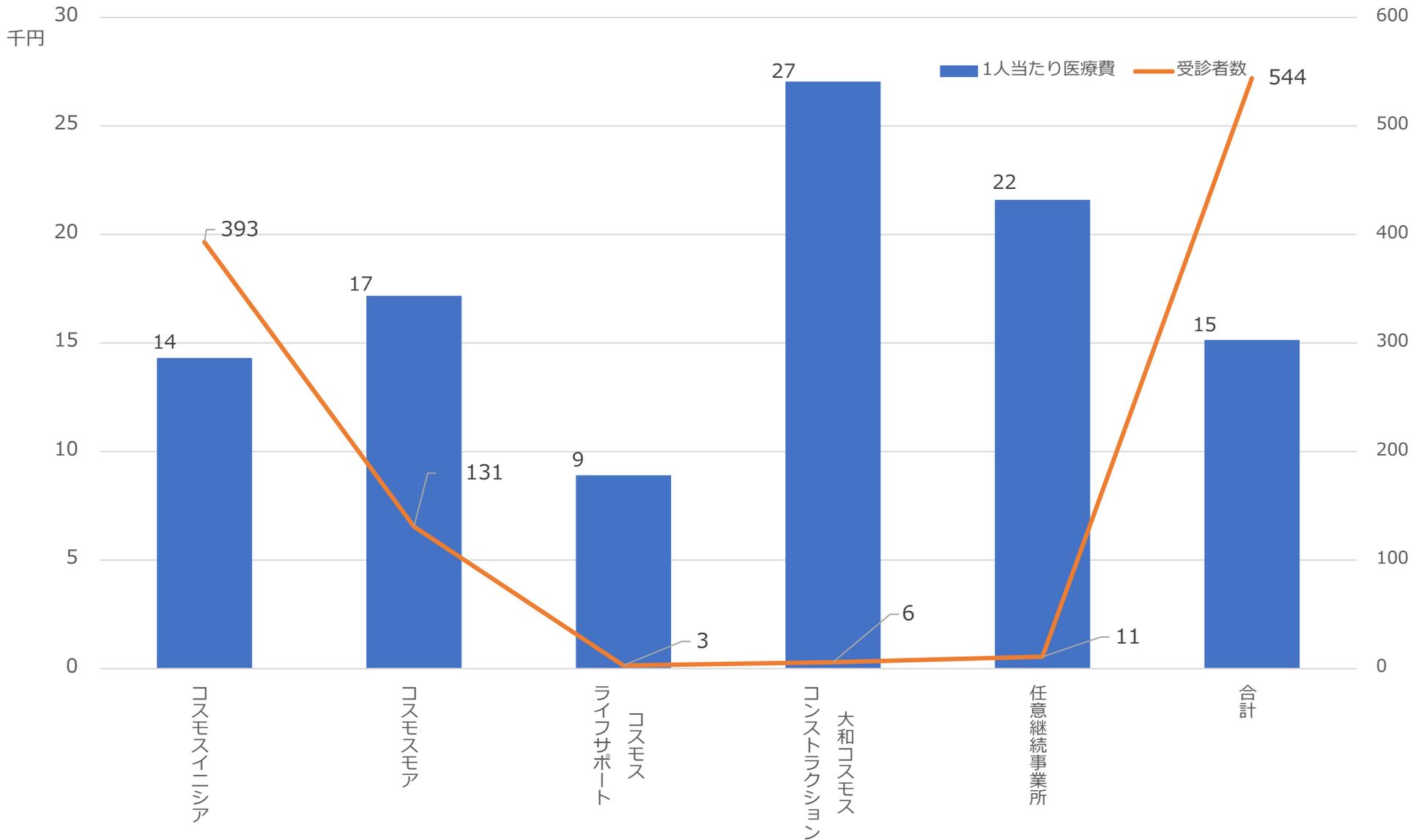


【当健保の特徴】 歯科医療費総額を事業所別に見ると、

- ・株式会社コスモスイニシア、株式会社コスモモアの医療費総額が高く、2社を合わせると16,961千円となり、医療費総額合計の95.9%を占める。
- ・受診者数も、株式会社コスモスイニシア、株式会社コスモモアに多く、2社を合わせると524名と受診者数合計の96.3%を占める。

オ【歯科医療費】

う蝕・歯周病医療費 事業所別1人当たり 2016年4月～2017年3月 (強制、本人家族計)



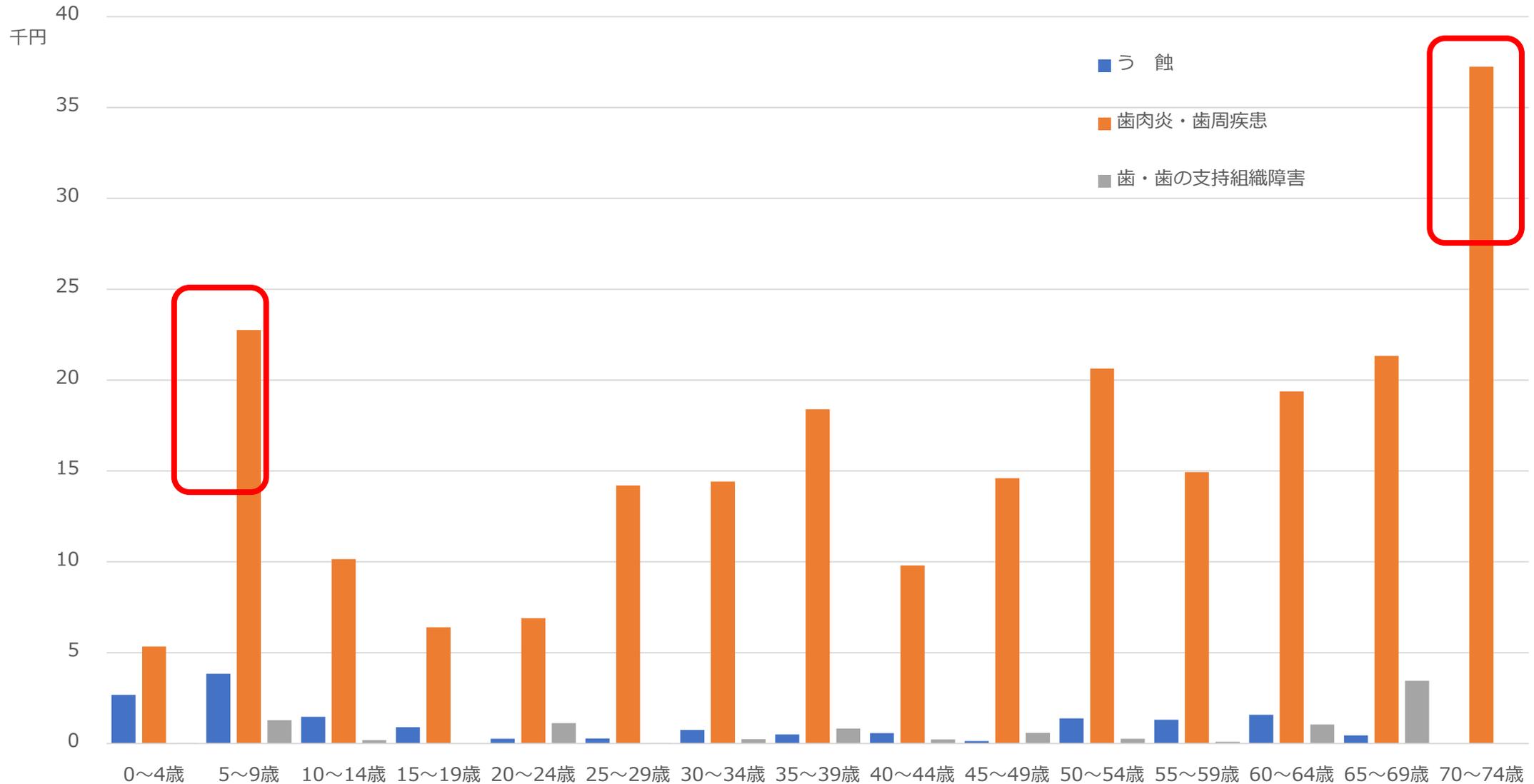
【当健保の特徴】 歯科医療費を1人当たりで事業所別に見ると、

- ・大和コスモスコンストラクションは受診者数が6名と少ないが、1人当たり医療費が一番高い。次いで、任意継続事業所の1人当たり医療費が高くなっている。事業所規模の大小に関わらず、施策を実施することが望ましい。

オ【歯科医療費】

う蝕・歯周病医療費 年齢別1人当たり 2016年4月～2017年3月

(強制、本人家族計)

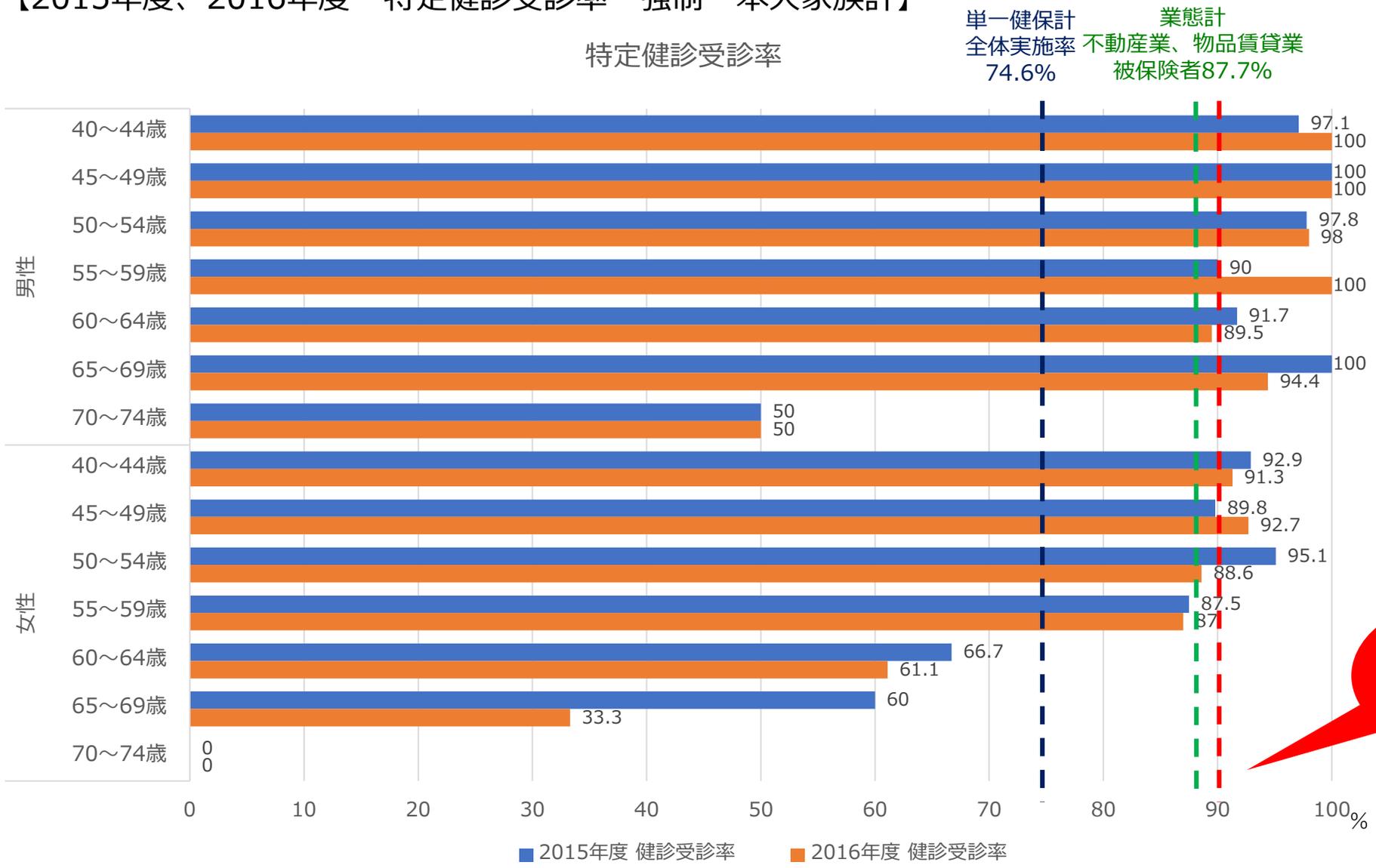


【当健保の特徴】 1人当たり歯科医療費を年齢別に見ると、

・どの年齢層でも、歯肉炎・歯周疾患で多く医療費がかかっている。

・歯肉炎・歯周疾患の医療費は、特に5~9歳、70~74歳で高くなっているが、それ以外の年齢層では20代後半以降大きなばらつきがなく、どの年代でも医療費がかかっていることがわかる。

力【2015年度、2016年度 特定健診受診率 強制 本人家族計】



2016年度
当組合
特定健診受診率
全体 90.6%
男性 97.1%
女性 84.5%

※参考値 (KOSMO抽出データ)

	合計	被保険者	被扶養者
2016年度	89.5%	95.8%	70.5%
2015年度	92.2%	96.8%	79.1%
単一健保計	74.6%	87.6%	46.0%

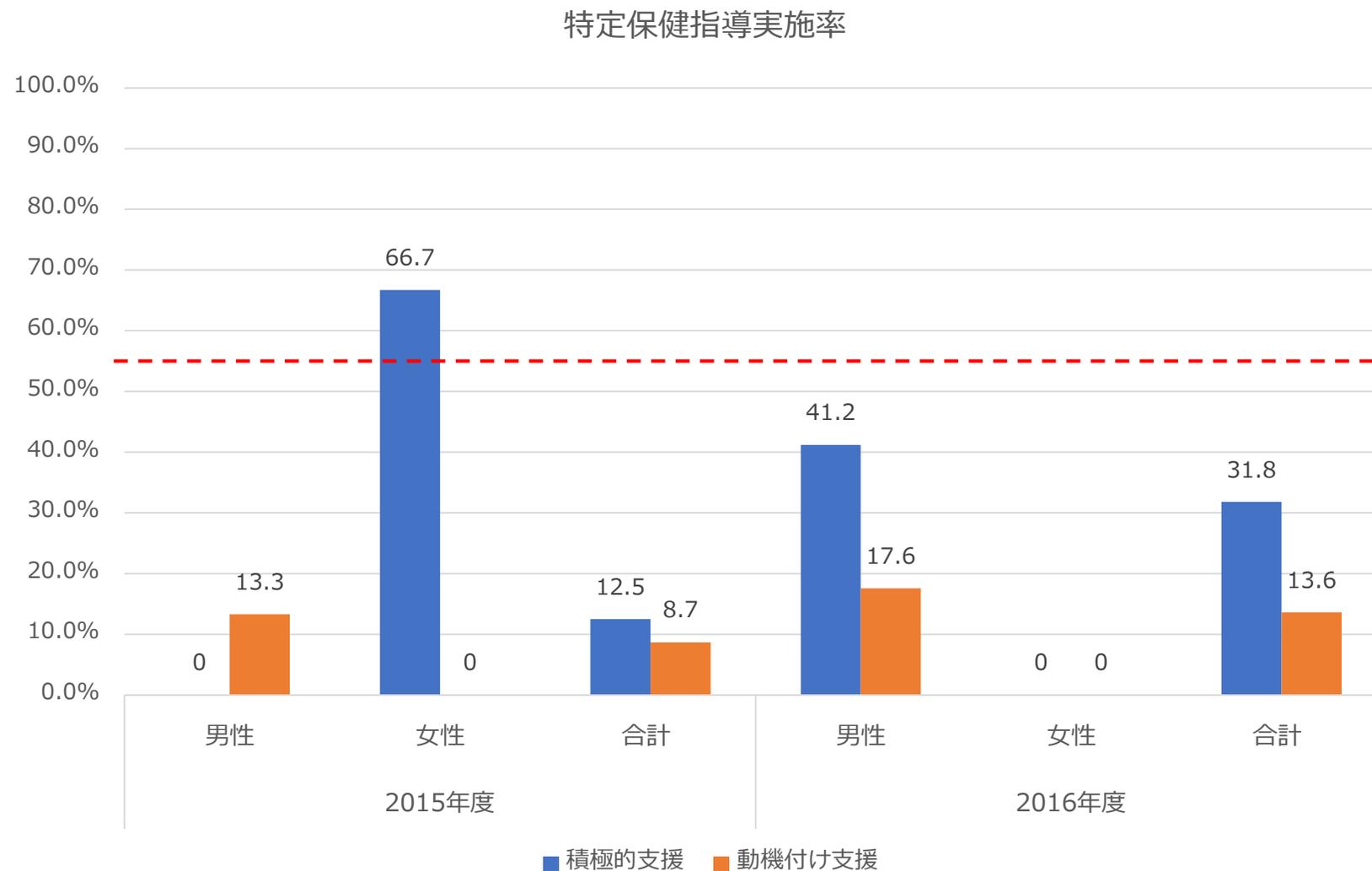
2018～2023年度
国目標における
単一健保目標
90%

※健康保険組合計・単一健保計・業態別計の比較データ：健保連統計データ 「平成27年度 特定健診・特定保健指導の実施状況に関する調査分析」より

【当健保の特徴】特定健診受診率を見ると、

- ・特定健診受診率は、本人・家族合計で90.6%となっており、単一健保計に比べて高く、国目標も達成している。
- ・本人・家族合計で男性97.1%、女性84.5%となっており、女性は国目標より低い。特に、女性の60代以上の受診率が低い。
- ・2016年度のKOSMO抽出データによると、被保険者の受診率は95.8%、被扶養者は70.5%であり、それぞれ単一健保計と比べて高い。

キ【特定保健指導実施率 被保険者 2015年度～2016年度】



全体	22.7%
積極的	31.8%
動機付け	13.6%

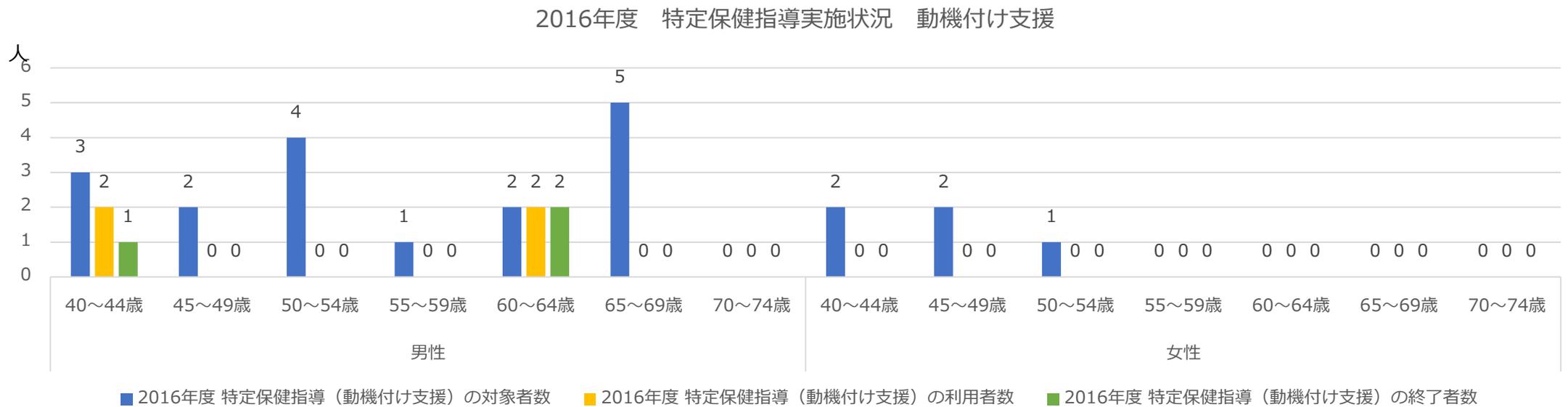
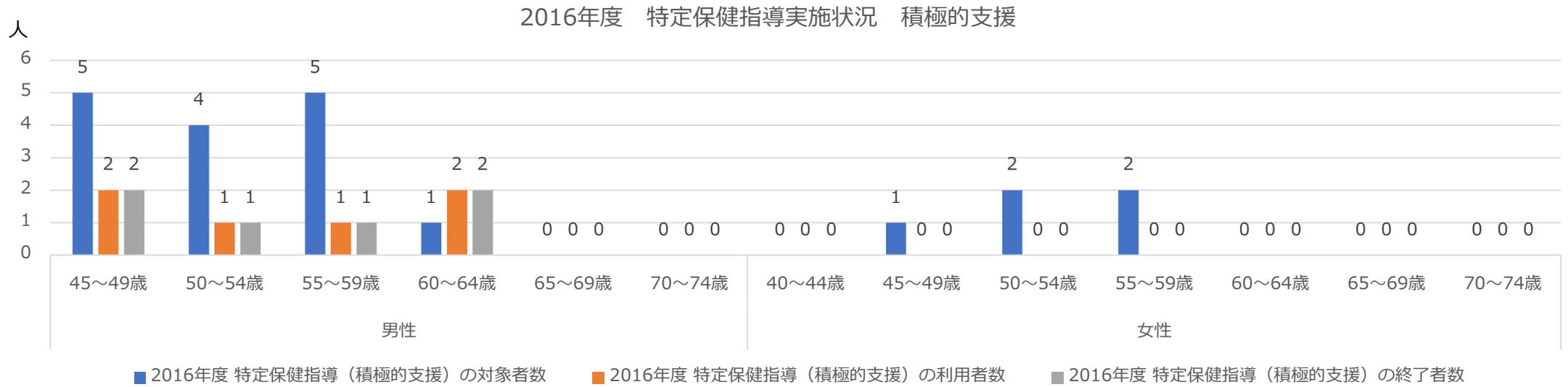
全体	15.2%
積極的	13.5%
動機付け	17.7%

**国目標 (単一健保)
2018年度～2023年度
55%**

※健康保険組合計・業態別計の比較データ：健保連統計データ 「平成27年度 特定健診・特定保健指導の実施状況に関する調査分析」より

【当健保の特徴】 特定保健指導実施率を見ると
 ・2015年度と比較し、2016年度の実施率は上がっているが、積極的、動機付け共に、単一健保の国目標55%に満たない。
 ・2016年度の女性での実施率は0となっている。

ク【年齢階層別 特定保健指導実施状況 被保険者 2016年度】



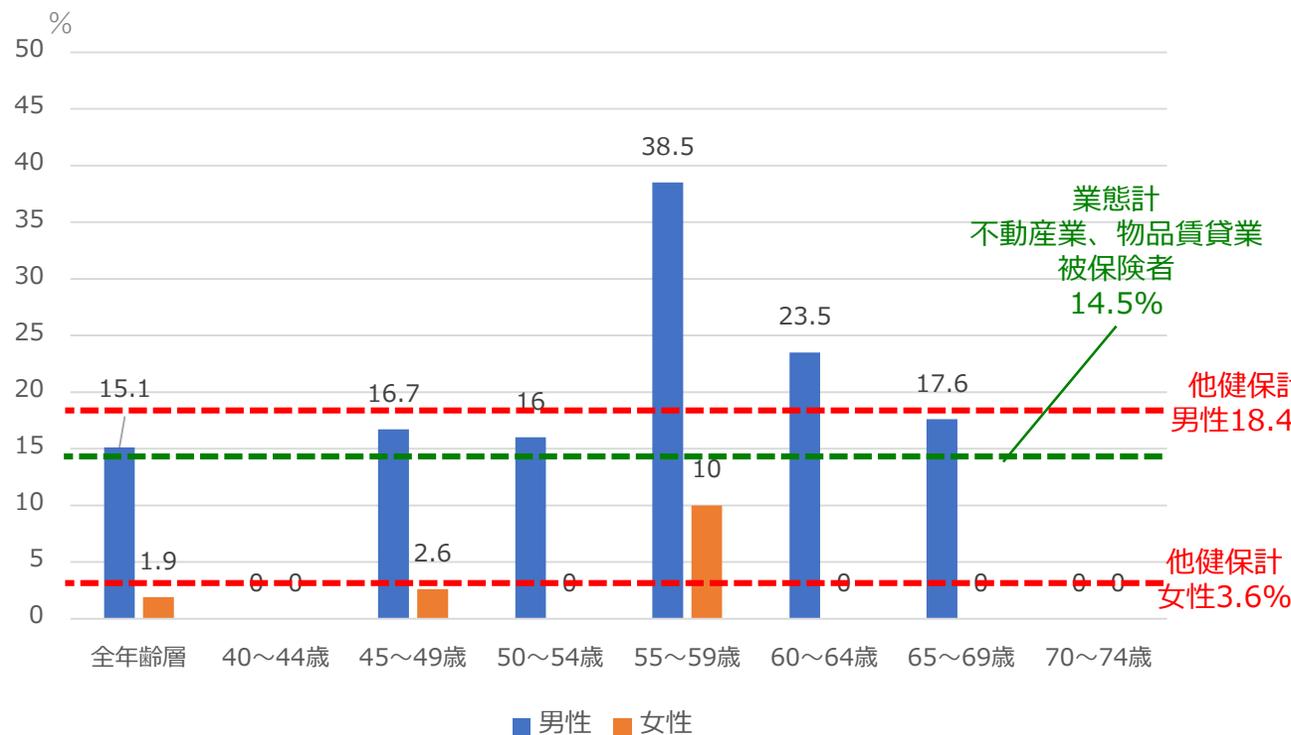
- 【当健保の特徴】2016年度の特定保健指導実施状況を見ると、
- ・積極的支援、動機付け支援共に対象者の母数は少なく、どの年代でも6名以下となっている。
 - ・特定保健指導対象者は、男性の方に多い。
 - ・女性では、積極的支援、動機付け支援共に利用者、終了者は0名となっている。

ケ【内臓脂肪症候群該当者・予備群者割合 2016年度】

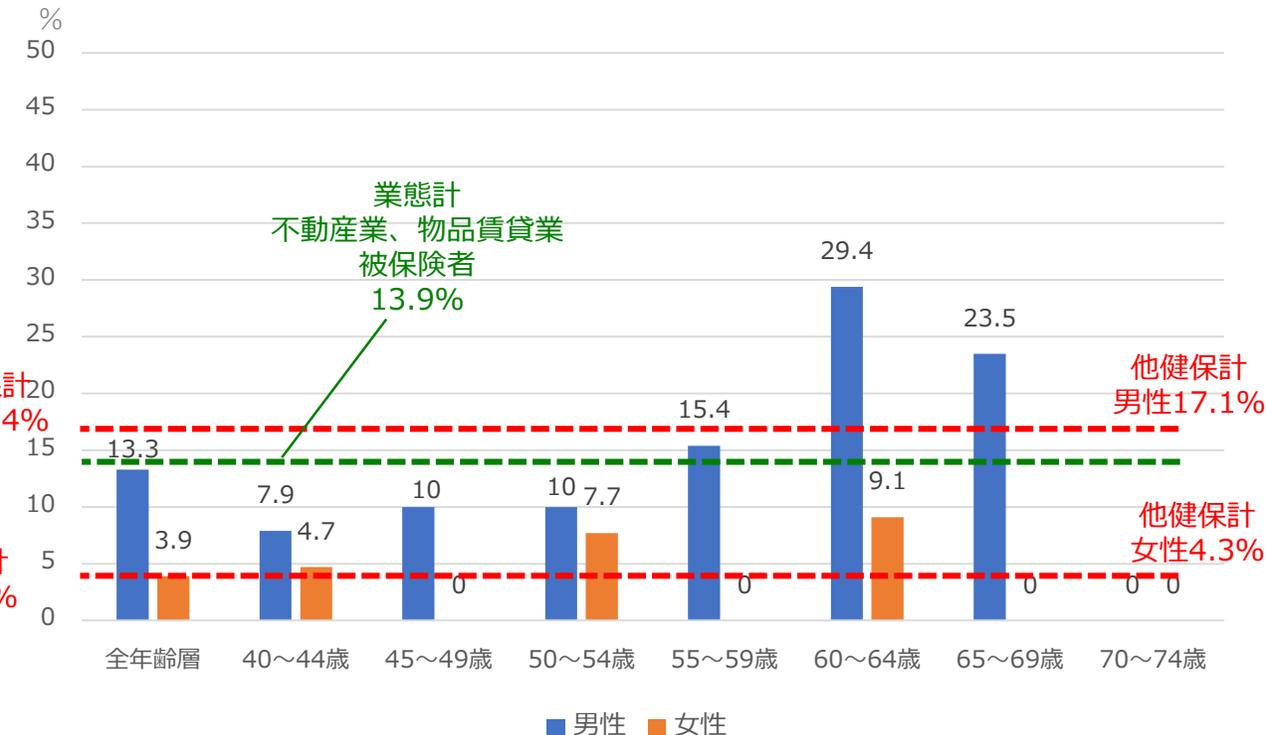
当組合	
全体	8.8%
男性	15.1%
女性	1.9%

当組合	
全体	8.8%
男性	13.3%
女性	3.9%

内臓脂肪症候群該当者割合



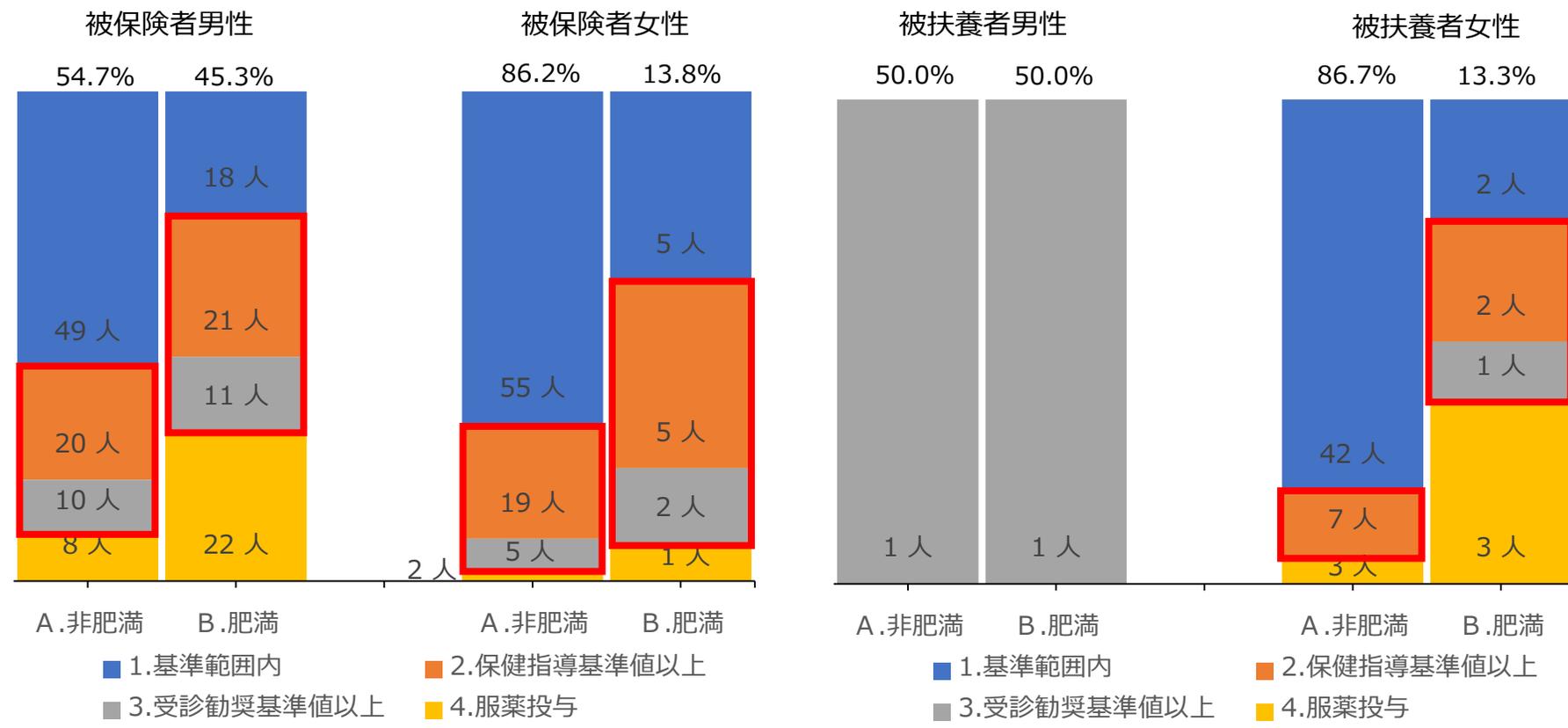
内臓脂肪症候群予備群者割合



【当健保の特徴】内臓脂肪症候群該当者・予備群者割合で見ると、

- ・内臓脂肪症候群該当者は、全体で8.8%と業態計より低い。性別で見ても、男性15.1%、女性1.9%とどちらも他健保計に比べて低い。年齢層別で見ると、男性55～59歳、60～64歳、女性は55～59歳で他健保計に比べて高くなっている。
- ・内臓脂肪症候群予備群者では、全体で8.8%と業態計より低い。性別で見ても、男性13.3%、女性3.9%とそれぞれ他健保計に比べて低い。年齢層別で見ると、男性は60代で、他健保計に比べて高くなっている。

コ【2016年度 健康分布図 特定健診レベル判定】



被保険者男性

	A. 非肥満		B. 肥満	
	人数	割合	人数	割合
1. 基準範囲内	49	30.8%	18	11.3%
2. 保健指導基準値以上	20	12.6%	21	13.2%
3. 受診勧奨基準値以上	10	6.3%	11	6.9%
4. 服薬投与	8	5.0%	22	13.8%

被保険者女性

	A. 非肥満		B. 肥満	
	人数	割合	人数	割合
1. 基準範囲内	55	58.5%	5	5.3%
2. 保健指導基準値以上	19	20.2%	5	5.3%
3. 受診勧奨基準値以上	5	5.3%	2	2.1%
4. 服薬投与	2	2.1%	1	1.1%

被扶養者男性

	A. 非肥満		B. 肥満	
	人数	割合	人数	割合
1. 基準範囲内	0	0.0%	0	0.0%
2. 保健指導基準値以上	0	0.0%	0	0.0%
3. 受診勧奨基準値以上	1	50.0%	1	50.0%
4. 服薬投与	0	0.0%	0	0.0%

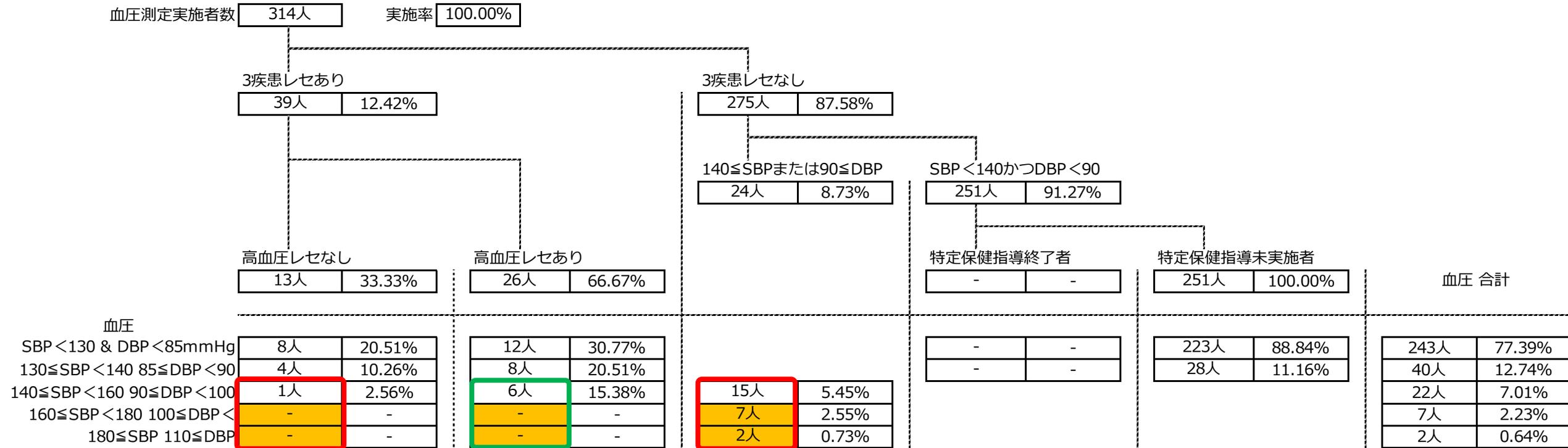
被扶養者女性

	A. 非肥満		B. 肥満	
	人数	割合	人数	割合
1. 基準範囲内	42	70.0%	2	3.3%
2. 保健指導基準値以上	7	11.7%	2	3.3%
3. 受診勧奨基準値以上	0	0.0%	1	1.7%
4. 服薬投与	3	5.0%	3	5.00%

【当健保の特徴】 特定健診レベル判定を見ると、受診勧奨基準値以上および保健指導基準値以上を有所見とした場合、

- ・ 肥満区分において、肥満が占める割合は被保険者男性で45.3%と高い。
- ・ 被保険者男性では、有所見者が非肥満で30名、肥満で32名おり、肥満、非肥満共に対応が必要となっている。
- ・ 被保険者女性では、有所見者が非肥満で24名、肥満で7名おり、非肥満の方がリスク保有者の人数が多い。
- ・ 被扶養者女性では、有所見者が非肥満で7名、肥満で3名おり、非肥満の方がリスク保有者の人数が多い。

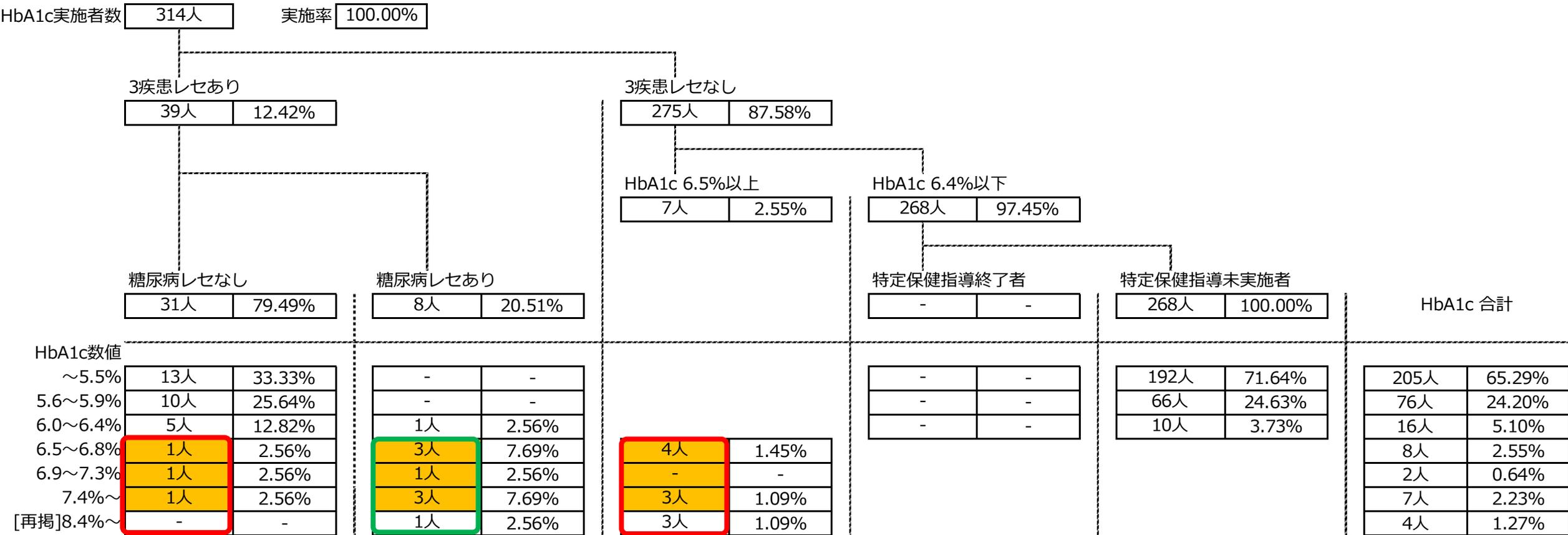
サ【脳卒中・心筋梗塞リスクフローチャート 2016年度 40歳以上被保険者+被扶養者（強制）】



【当健保の特徴】脳卒中・心筋梗塞リスクフローチャートで見ると、

- ・高血圧で受診が必要な者（「最高血圧140mmHgまたは最低血圧90mmHg以上」または「高血圧治療の服薬あり」）に該当する51名の内、25名（49.0%）は受診していない。25名に対しては、適切な医療受診が必要となっている。
- ・高血圧レセのある者の内、6名（23.1%）は適切にコントロールされていない。（最高血圧140mmHgまたは最低血圧90mmHg以上をコントロールできていないとした場合）

シ【糖尿病リスクフローチャート 2016年度 40歳以上被保険者+被扶養者（強制）】



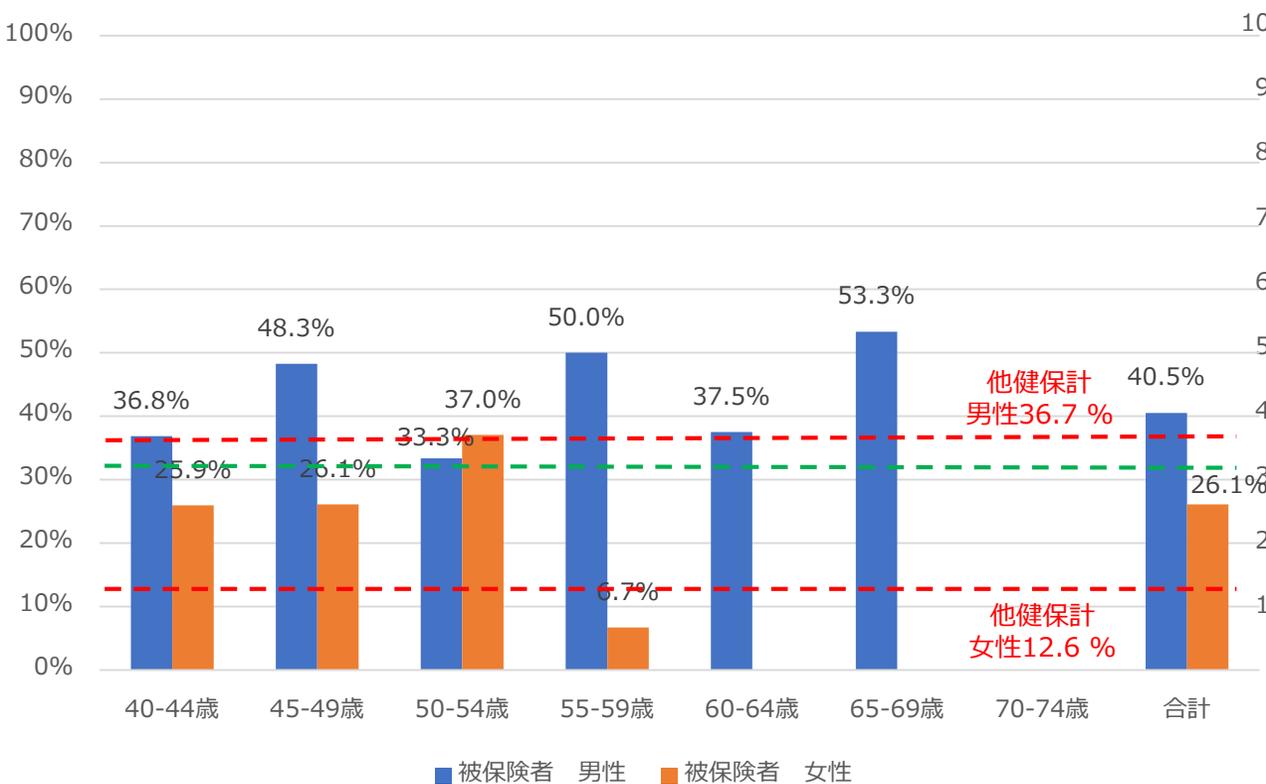
【当健保の特徴】糖尿病リスクフローチャートで見ると、

- ・糖尿病で受診が必要な者（「HbA1c6.5%以上」または「糖尿病治療の服薬あり」）に該当する18名の内、10名（55.6%）は受診していない。10名に対しては、適切な医療受診が必要となっている。

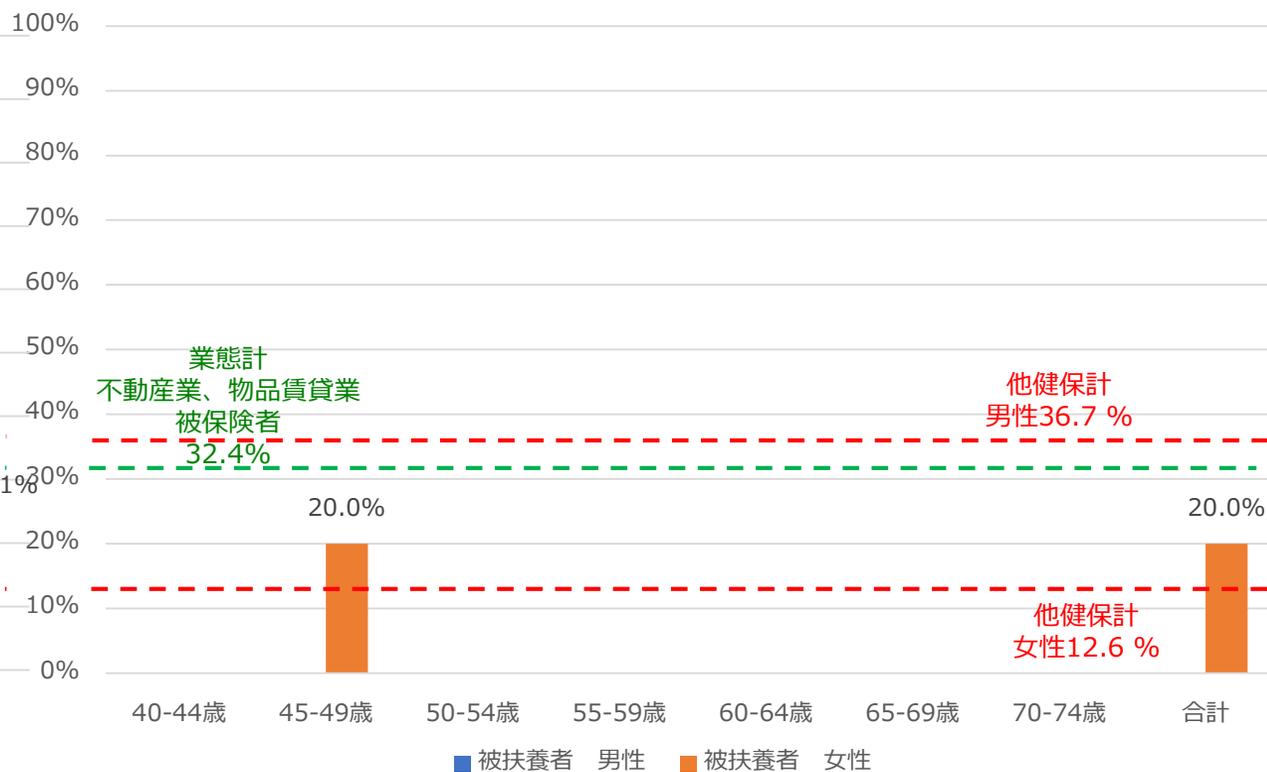
- ・糖尿病レセのある者の内、7名（87.5%）は適切にコントロールされていない。（HbA1c6.5%以上をコントロールできていないとした場合）

又【年齢階層別喫煙率 2016年度 強制】

年齢階層別喫煙率 被保険者



年齢階層別喫煙率

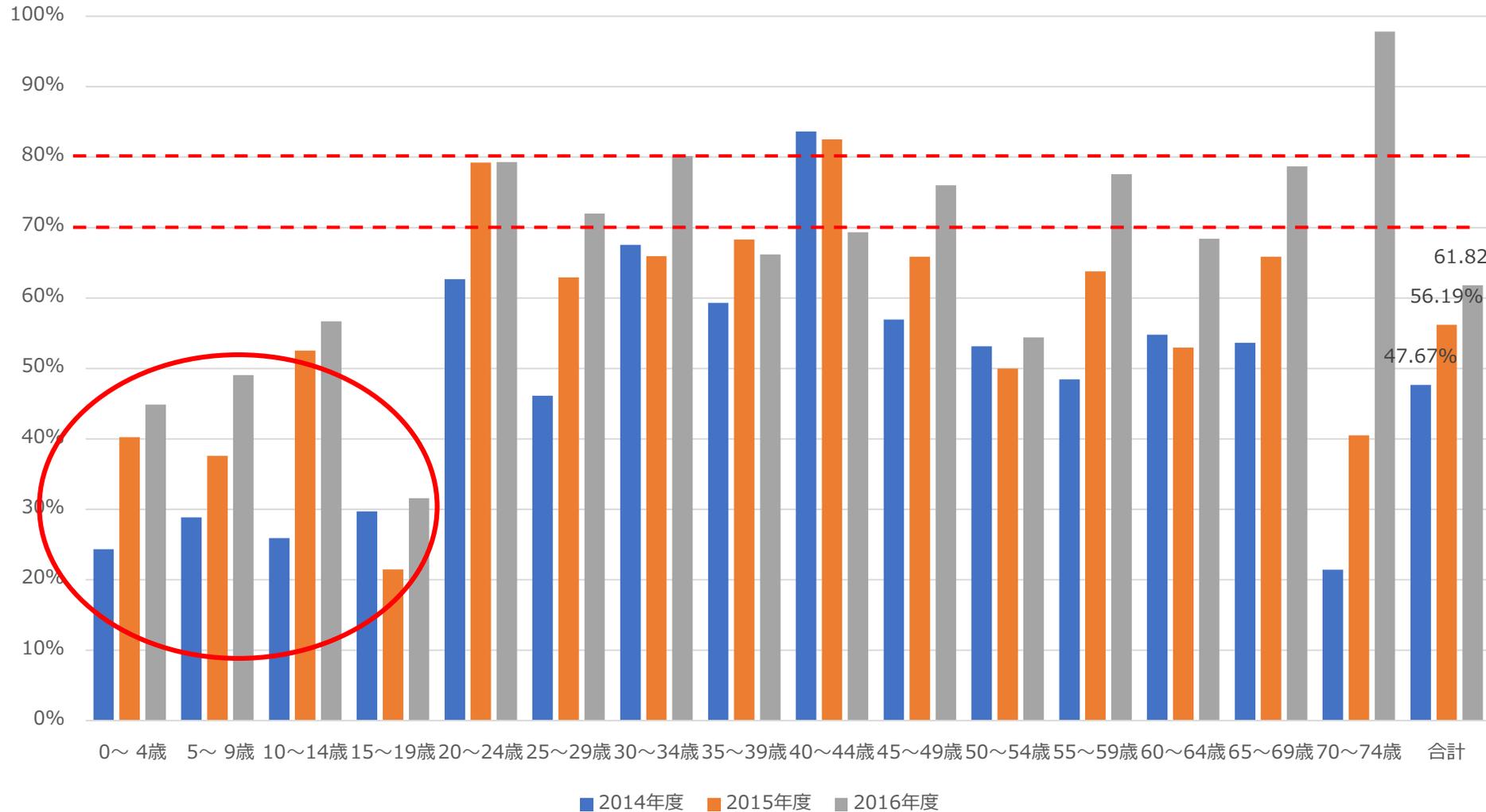


【当健保の特徴】喫煙率を見ると、

- ・男性被保険者の喫煙率は40.5%で、他健保計・業態計に比べ高い。
- ・女性被保険者の喫煙率は26.1%で、他健保計に比べ高い。55～59歳を除く年齢層で高い割合となっている。
- ・女性被扶養者の喫煙率は20.0%で、他健保計に比べ高い。

セ【年代別後発医薬品使用割合 強制 2014年度～2016年度】

後発医薬品使用割合



国目標
2020年：80%

2017年：70%
他健保計：70.1%

◎データは新指標（＝後発医薬品／後発医薬品のある先発医薬品+後発医薬品）

◎国目標は、新指標の値 ※比較データ：健保連統計データ 後発医薬品の普及状況（2017.9）

【当健保の特徴】後発医薬品の使用割合を見ると、

- ・ジェネリックの使用率は、2016年度全体で61.8%と他健保計70.1%より低い。
- ・年代別で見ると、0～19歳の被扶養者で使用率が低い。
- ・2014年度47.7%、2015年度56.2%、2016年度61.8%と使用割合は上がってきているが、2020年の目標に向け、更なる施策が必要となる。

【定期健康診断問診結果 強制 2017年度】

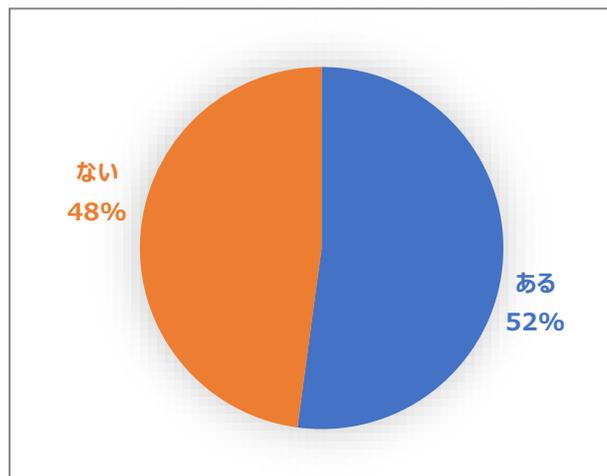
BMIと運動習慣の関係

BMI区分	運動習慣	年齢区分						割合
	区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	総計	
痩せ (BMI18.5未満)	習慣あり	6人	2人	4人	2人	0人	14人	2.0%
	習慣なし	27人	62人	11人	6人	1人	107人	15.0%
適性 (BMI19~24)	習慣あり	16人	18人	17人	23人	11人	85人	11.9%
	習慣なし	109人	137人	82人	59人	16人	403人	56.4%
肥満 (BMI25以上)	習慣あり	1人	5人	5人	6人	5人	22人	3.1%
	習慣なし	8人	27人	18人	20人	10人	83人	11.6%

メタボと20歳から体重10kg増の関係

保健指導レベル	該当者	あり	なしまたは不明
積極的支援	42人	35人	7人
動機づけ支援	33人	16人	17人

過去1年間の歯科検診受診の有無



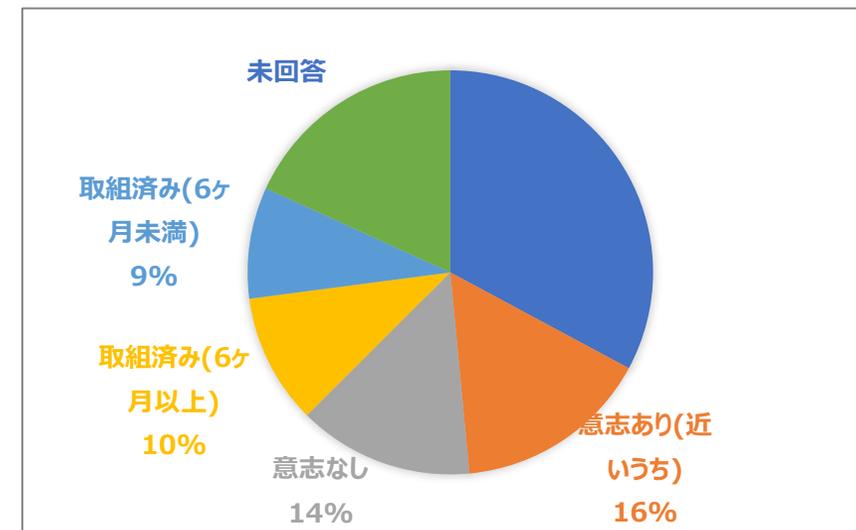
インフルエンザ予防接種と罹患の関係

接種区分	罹った	疑い	罹らなかった
接種した	24人	4人	267人
接種していない	33人	4人	420人
計	57人	8人	687人

睡眠と健康度との関係

区分	健康と思う	大体健康と思う	あまり健康と思わない	健康と思わない	割合
睡眠で十分な休養がとれている	142人	275人	36人	3人	60.6%
睡眠で十分な休養がとれていない	38人	180人	74人	4人	39.4%
割合	23.9%	60.5%	14.6%	0.9%	

生活習慣改善意識



【当健保の特徴】 定期健康診断の問診を見ると、

- 運動習慣のない人が8割を超えている。そのうち、適正と肥満で運動習慣がない人は68%である。将来の生活習慣病予防に運動促進を図る必要がある。
- 20歳から体重が10kg増加は積極的支援対象者の83.3%に見られた。糖尿病リスクが倍増する為、特定保健指導の強化、若年層の体重増加を防止する施策が必要である。
- 生活習慣の改善の意志がある人は半数に近い。
- 歯科検診または歯科の治療で1年以内に歯科検診を行った人は約半数である。
- 十分な睡眠がとれていない人は、十分な睡眠がとれている人に比べて、健康と感じていない人が2倍である。

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, ク, ケ, コ, サ, シ, ス, セ, ソ	健康意識の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。 	➔	機関紙、ホームページ、ポイント制度、カラダ測定会、後発医薬品差額通知、禁煙支援、栄養に関するセミナー等を通じて、疾病やその予防法を周知し、ヘルスリテラシーの向上を促す。	
2	ア, イ, ウ, オ	「呼吸器系疾患」、「歯科」の医療費が高い <ul style="list-style-type: none"> ・「呼吸器系疾患」は、被扶養者男性の0～9歳、50～54歳、被扶養者女性の0～9歳で多い。 ・119分類で見ると、その他の呼吸器系疾患、喘息、アレルギー性鼻炎、急性咽頭炎などの医療費が多い。 ・「歯科」の医療費は全体の15%を占める。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・予防可能な季節性疾患への予防のために、インフルエンザ予防接種の促進、および予防に関する情報提供の実施 ・罹患時の医療費抑制のためにジェネリック医薬品の利用促進を促す ・歯科健診の継続実施、また被扶養者向けの実施も検討する。 	
3	カ	健診受診率の更なる向上 <ul style="list-style-type: none"> ・受診率は合計90.6%で単一健保計に比べて高く、国目標も達成している。 ・被保険者では、女性の60代以上の受診率が低い。 ・被扶養者の方が被保険者に比べて受診率が低い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・被扶養者の受診率を上げるために、健診申込期間の延長など健診を受けやすい環境の整備を検討する。 ・カラダ測定会などで健診受診の動機付けをする。 ・事業主との継続した連携により適宜受診勧奨を行い、健診受診率の更なる向上を目指す。 	✓
4	ア, イ, ウ	がん検診受診率の更なる向上 <ul style="list-style-type: none"> ・新生物の医療費は、他健保計に比べ低いものの当健保の医療費では4番目に高い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見、早期治療のためにがん検診受診率の更なる向上を目指す ・婦人科健診や胃カメラ、バリウム検査に対する抵抗感や恐怖心を減らすための情報提供の実施 	
5	キ, ク, ソ	特定保健指導の実施率が低い <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度実施率は積極的支援31.8%、動機付け支援13.6%と、単一健保の国目標55%に満たない。 ・特定保健指導対象者の母数は少ないが、対象者は男性に多い。 ・女性では、積極的支援、動機付け支援共に利用者、終了者は0名となっている。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・事業主との実施体制の構築とともに、生活習慣病対策としての特定保健指導の必要性や参加意識の醸成を図る。 ・被扶養者への実施方法の検討を行う。 	✓
6	ア, イ, ウ, エ, ケ, コ, サ, シ	リスク保有者の重症化予防 <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診レベル判定による非肥満者のリスク保有者は、被保険者男性と被保険者女性に一定数存在する。 ・内臓脂肪症候群該当者・予備軍は被保険者男性の55歳以降に多い。 ・「高血圧症」「糖尿病」の受診が必要な者の内、未受診者がいる。 ・受診中の「高血圧症」「糖尿病」でコントロール不良者がいる。 ・生活習慣病医療費では「人工透析」が高く、特に被保険者男性で突出して多い。糖尿病の重症化によることが予測される。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導対象者以外のリスク保有者への保健指導や受診勧奨、重症化予防の実施を検討する。 ・生活習慣病は予防できる疾病のため、生活習慣改善や疾病予防のための情報提供を行う。 ・適切な医療受診の継続と重症化予防を促す。 	✓
7	ス	喫煙率が高い <ul style="list-style-type: none"> ・男性被保険者は、他健保計・業態計に比べほぼ全ての年齢層で高い。 ・女性被保険者も、他健保計に比べほぼ全ての年齢層で高い。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙支援の補助制度について周知を行い、補助制度の利用を促す。 ・禁煙ポスターの掲示や禁煙に関する情報提供等、喫煙によるリスク、受動喫煙のリスクについてのリテラシーを上げる。 	✓

8	セ	ジェネリック医薬品の利用促進 ・ジェネリック使用率は、2016年度全体で61.8%と他健保計70.1%より低い。 ・特に0～19歳の被扶養者で使用率が低い。	➔	・2020年の国目標80%に向けて、ジェネリック差額通知やシールの配布等、ジェネリック医薬品の利用促進を目指す。
9	ア, イ, ウ, エ, ケ, コ, ソ	生活習慣病予防、医療費削減のためのリラクゼーション及びコミュニケーションの向上	➔	・フィットネス補助やスポーツ活動補助、宿泊補助などを通して、運動習慣の定着やリラクゼーション、円滑なコミュニケーションの促進につなげる

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・適用事業所は首都圏と関西圏に分かれているが、約9割の被保険者が首都圏勤務である ・非保険者は男性・女性と半々である ・加入者の構成は30歳代がボリュームゾーンである ・健保所属の医療専門職は不在である ・被扶養者は子供を除くと女性が多い 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・集合イベントは、加入者が多く在籍する首都圏での開催が多くなっているため、その他の拠点の加入者にも平等な機械を与えることが必要である ・加入者が多い若手層を意識した対策やアプローチを検討する 健康教育・保健指導の検討 ・医学的な知識、経験を補うために、事業主の保健師や委託事業者の活用を行う

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病リスク保有者への対策は、特定保健指導のみである。（被保険者のみの対象） ・がん検診受診率の更なる向上が必要 ・イベントへの参加者や補助利用者が固定している ・事業所や拠点によって、イベント参加人数のばらつきが大きい 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・被扶養者や、非肥満、若年層のリスク保有者への対策の検討が必要である ・がん検診受診率向上対策の検討が必要である ・イベント内容や告知方法を工夫する ・季節性疾病の予防対策の検討が必要である

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

健康意識の醸成をはかりセルフケアにつなげる

健康管理の基本となる、健康診断の受診率をあげ（特に被扶養者）、疾病の早期発見・早期治療につなげる。健診後に適正な医療受診をすることで重症化予防につなげる

事業全体の目標

各種施策の効果的な実践により、メタボリックシンドロームを予防・改善することで重症化を予防し、将来の医療費増大を抑える

非肥満も含んだ、保健指導、健康教育、受診勧奨により、有所見者を提言させ、医療費削減につなげる

事業の一覧

職場環境の整備

保健指導宣伝	健康委員会（仮称）
--------	-----------

加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関紙
--------	-----

保健指導宣伝	健保ホームページ
--------	----------

保健指導宣伝	ポイント制度
--------	--------

個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
----------	------------

特定保健指導事業	特定保健指導
----------	--------

保健指導宣伝	医療費通知
--------	-------

保健指導宣伝	カラダ測定会
--------	--------

保健指導宣伝	後発医薬品（ジェネリック）差額通知
--------	-------------------

疾病予防	メンタルヘルス対策
------	-----------

疾病予防	歯科健診
------	------

疾病予防	インフルエンザ予防対策
------	-------------

疾病予防	特定健診（被扶養者）
------	------------

疾病予防	定期健康診断(被保険者)
------	--------------

疾病予防	定期健康診断(被扶養者)
------	--------------

疾病予防	がん検診：婦人科健診（子宮頸部細胞診・マンモグラフィまたは乳房エコー検査）
------	---------------------------------------

疾病予防	がん検診：（胃部検査 エックス線または胃カメラ検査）
------	----------------------------

疾病予防	栄養に関するセミナー実施
------	--------------

疾病予防	禁煙支援
------	------

体育奨励	フィットネス補助
------	----------

体育奨励	スポーツ活動補助
------	----------

その他	えらべる倶楽部
-----	---------

その他	宿泊補助
-----	------

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
職場環境の整備																			
保健指導宣伝	1	新規	健康委員会(仮称)	全て	男女	0～74	加入者全員	3	シ	・年4回実施 ・30年度第一回目は9月実施予定	ア,イ,コ	・事業所、保健師と健康委員会(仮称)を行い事業所との連携を強化する	0	-	-	-	-	・保健指導事業に関する、事業所との連携強化。	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。
													新規実施(第一回目は2018年9月実施予定)	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施		
委員会開催回数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：4回 平成32年度：4回 平成33年度：4回 平成34年度：4回 平成35年度：4回)30年度第一回目は9月実施予定																			
加入者への意識づけ																			
保健指導宣伝	2,3,4,5	既存	機関紙	全て	男女	0～74	加入者全員	2	ス	機関紙発行：年2回(春4月頃、秋9月頃)事業所経由で配布	ス	・タイムリーな情報を提供し、加入者のインタビューなど親しみやすい誌面作りを行っている ・被保険者に配布、被扶養者にまで行き届いているかが不明	440	-	-	-	-	健保事業・保健事業を周知する。健康に関する情報を発信し、健康意識を醸成する	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。
													機関紙発行：年2回(春4月頃、秋9月頃)事業所経由で配布	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施		
発行回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-																			
2	既存	健保ホームページ	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ス	更新作業を年1回実施インターネット環境があれば勤務先・自宅どこからでもアクセスができるシステム上で、健保情報の発信やフィットネス・宿泊予約の申請ができる	ス	・利用者の固定化が課題である	394	-	-	-	-	健康保険組合の運営についての周知、健康保険組合からのお知らせ等で保健事業に対する理解の促進。休養、リフレッシュ、運動促進、その他家庭の健康づくりやコミュニケーション、暮らしのサポート。	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。	
												更新作業を年1回実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施			前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施
更新回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-																			
2	既存	ポイント制度	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ア,ウ,ス	・健診結果提出者・健保主催のイベントへの参加など、健康的な取り組み、行動に対してポイントを付与。健康関連メニューの利用や交換ができる	ス	・機関紙やメール配信での周知 ・保有ポイントの利用促進のため、ポイントの交換方法の周知や商品に交換できるキャンペーンを実施。 ・実績に応じたポイントを自動付与。	50	-	-	-	-	健診の受診促進と健診結果の回収。健康的な生活習慣の定着化。	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。	
												健診結果提出者・健保主催のイベントへの参加など、健康的な取り組み、行動に対してポイントを付与	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施			前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施
ポイント制度の周知回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-																			
個別の事業																			
特定健康診査事業	3	既存(法定)	特定健診(被保険者)	全て	男女	40～74	被保険者	3	イ,エ,ク,ケ,シ	・事業主が行う定期健診と併せて共同実施。 ・5～8月実施	ア,コ	・HP、メール配信で案内(5月頃) ・就業時間内の受診	7,570	-	-	-	-	健診受診率の更なる向上 ・受診率は合計90.6%で単一健保計に比べて高く、国目標も達成している。 ・被保険者では、女性の60以上の受診率が低い。 ・被扶養者の方が被保険者に比べて受診率が低い。	
													5～8月事業主が行う定期健診と併せて共同実施。	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施		前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施
健診案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												健診受診率(【実績値】95.7% 【目標値】平成30年度：96% 平成31年度：96% 平成32年度：96% 平成33年度：96% 平成34年度：96% 平成35年度：96%)被保険者・任継(総数計304：受診者数計291)							
												900							

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
特定保健指導事業	3,4	既存(法定)	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	ア,イ,エ,オ,ク,ケ,シ	・外部委託業者にて実施 ・被保険者は、対面での初回面談(事業所にて)またはタブレットでの初回面談実施 ・被保険者は、継続支援ではICTアプリ使用(今後被扶養者への展開を検討中) ・2月～9月頃にかけて実施 ・終了者へポイントを付与	ア,コ	・年1回、健保からメールで案内 ・被保険者は就業時間内可 ・リスクの度合い、服薬状況、これまでの参加回数、改善状況等を考慮し対象者を抽出、希望者に実施。対象範囲の拡大を検討 ・40歳未満にも案内メールを送り参加を促す(参加は任意) ・平成30年度より事業主と連携予定	外部委託業者にて2月～9月頃にかけて実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	対象者への情報提供、保健指導実施による生活習慣病・重症化予防	特定保健指導の実施率が低い ・2016年度実施率は積極的支援31.8%、動機付け支援13.6%と、単一健保の国目標55%に満たない。 ・特定保健指導対象者の母数は少ないが、対象者は男性に多い。 ・女性では、積極的支援、動機付け支援共に利用者、終了者は0名となっている。
	保健指導案内回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												全体実施率(【実績値】16.9% 【目標値】平成30年度：17% 平成31年度：17% 平成32年度：17% 平成33年度：17% 平成34年度：17% 平成35年度：17%)H29年度の健診結果を基に実施した保健指導実績被保険者・被扶養者(対象者77名/参加者13名)							
	-												被保険者実施率(【実績値】18.6% 【目標値】平成30年度：19% 平成31年度：19% 平成32年度：19% 平成33年度：19% 平成34年度：19% 平成35年度：19%)-							
	-												被扶養者実施率(【実績値】0% 【目標値】平成30年度：10% 平成31年度：10% 平成32年度：10% 平成33年度：10% 平成34年度：10% 平成35年度：10%)H30に参加者1名いた場合							
保健指導宣伝	2	既存	医療費通知	全て	男女	0～74	基準該当者	1	ク	・年に1回給付があった組合員に通知をハガキで郵送 ・月に1回、高額療養費一部負担還元金が発生した対象者へ通知をハガキで郵送	ス	-	71	-	-	-	-	-	医療費(加入者が負担した医療費、健康保険組合が負担した給付金など)の周知、それによる医療費適正化	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。
	通知回数(【実績値】13回 【目標値】平成30年度：13回 平成31年度：13回 平成32年度：13回 平成33年度：13回 平成34年度：13回 平成35年度：13回)-												事業実施による成果を測るための定量的な指標を設定することが困難なため(アウトカムは設定されていません)							
	2,5	既存	カラダ測定会	全て	男女	18～74	被保険者	1	ア,ケ,シ	・外部委託業者にて実施 ・年に1回6月頃、2箇所の事業所(大阪、東京)で実施 ・フィットネスクラブより機材を持参してもらい測定	ア,コ	・就業時間内可 ・参加費無料 ・参加者へ健康ポイントを付与 ・体成分、体力測定等の各種測定、健康カウンセリング、レッスン体操、マッサージなど実施 ・事業所毎の参加比率に偏りがある	外部委託業者にて年に1回6月頃、2箇所の事業所(大阪、東京)で実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	健診前の動機付け支援。現在の自分のからだの状態が理想に対して堂であるかを知り、アドバイスを基に目標を立てて、生活習慣の見直しを行うきっかけとする	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。 健診受診率の更なる向上 ・受診率は合計90.6%で単一健保計に比べて高く、国目標も達成している。 ・被保険者では、女性の60代以上の受診率が低い。 ・被扶養者の方が被保険者に比べて受診率が低い。
開催回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												参加人数(【実績値】69人 【目標値】平成30年度：70人 平成31年度：70人 平成32年度：70人 平成33年度：70人 平成34年度：70人 平成35年度：70人)集合型は参加人数								
7	既存	後発医薬品(ジェネリック)差額通知	全て	男女	0～74	基準該当者	1	ケ	後発医薬品転換後の負担薬剤費の差額が300円以上の加入者へ、後発医薬品利用促進のお知らせ文書を送付(1月頃)ジェネリック利用促進シールの配布を検討	ス	-	120	-	-	-	-	-	ジェネリック医薬品使用促進による調剤費適正化 ・ジェネリック使用率は、2016年度全体で61.8%と他健保計70.1%より低い。 ・特に0～19歳の被扶養者で使用率が低い。		
差額案内通知回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												後発医薬品利用率(【実績値】70.3% 【目標値】平成30年度：70.5% 平成31年度：70.5% 平成32年度：70.5% 平成33年度：70.5% 平成34年度：70.5% 平成35年度：70.5%)※数量ベース/H29.4実績/厚労省基準 ※H29通知数：92件								
0												-	-	-	-	-	-			

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
疾病予防	5	既存	メンタルヘルス対策	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	HPで、社団法人日本産業カウンセラー協会のホームページを紹介。全国各地の相談室を紹介。	ス	HPで案内	HPで案内	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	メンタルヘルスに関する相談窓口の案内等によるメンタルヘルス不調の予防	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。
情報提供回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												事業実施による成果を測るための定量的な指標を設定することが困難なため(アウトカムは設定されていません)								
3,4	既存	歯科健診	全て	男女	18～74	被保険者、被扶養者	1	ア,ウ,エ,ク,ケ,シ	・事業所内(東京2月頃・大阪8月頃)で集合健診(各1日/年、東京100人、大阪20人) ・受診者へポイントを付与 ・H30年度よりICT(セルフチェックアプリ)の導入	ア,コ	・就業時間内での実施 ・被扶養者向けの実施を検討中	事業所内(東京2月頃・大阪8月頃)で集合健診(各1日/年、東京100人、大阪20人)	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	う歯・歯周病等の予防、早期発見・早期治療。歯周病のよる糖尿病等の疾患予防	「呼吸器系疾患」、「歯科」の医療費が高い ・「呼吸器系疾患」は、被扶養者男性の0～9歳、50～54歳、被扶養者女性の0～9歳で多い。 ・119分類で見ると、その他の呼吸器系疾患、喘息、アレルギー性鼻炎、急性咽喉炎などの医療費が多い。 ・「歯科」の医療費は全体の15%を占める。
開催回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												参加人数(【実績値】91人 【目標値】平成30年度：95人 平成31年度：95人 平成32年度：95人 平成33年度：95人 平成34年度：95人 平成35年度：95人)集合型は参加人数								
3	既存	インフルエンザ予防対策	全て	男女	0～74	被保険者、被扶養者	1	ケ,シ,ス	・事業所または医療機関等で予防接種を受けた方へ費用の一部を補助 ・1人1回1,000円 ・10月～12月	ア,コ	・HPで案内1回、事業所メール配信1回 ・事業所実施の場合就業時間内可 ・補助制度・予防接種の必要性の周知が必要	10～12月事業所または医療機関等で予防接種を受けた方へ費用の一部を補助	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	インフルエンザの感染と重症化予防。職場内流行の抑制	「呼吸器系疾患」、「歯科」の医療費が高い ・「呼吸器系疾患」は、被扶養者男性の0～9歳、50～54歳、被扶養者女性の0～9歳で多い。 ・119分類で見ると、その他の呼吸器系疾患、喘息、アレルギー性鼻炎、急性咽喉炎などの医療費が多い。 ・「歯科」の医療費は全体の15%を占める。
案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												接種人数(【実績値】320人 【目標値】平成30年度：325人 平成31年度：325人 平成32年度：325人 平成33年度：325人 平成34年度：325人 平成35年度：325人)集合型は参加人数								
3	既存(法定)	特定健診(被扶養者)	全て	男女	40～74	被扶養者	1	ア,イ,ク,ケ	・市町村。パート先での健診結果の回収を検討 ・医療機関での受診(各自で予約) ・5～8月に実施	ス	・自宅宛に案内冊子を送付(5月頃) ・自己負担額なし ・H30年度より健診申込み期間を延長する(未申込者に対して) ・H30年度より未申込者への受診勧奨実施(未申込みの理由ヒアリング)	5～8月医療機関での受診(各自で予約)	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	健診率向上による、生活習慣病リスクの軽減。特定保健指導対象者の抽出	健診受診率の更なる向上 ・受診率は合計90.6%で単一健診計に比べて高く、国目標も達成している。 ・被保険者では、女性の60代以上の受診率が低い。 ・被扶養者の方が被保険者に比べて受診率が低い。
健診案内回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												健診受診率(【実績値】76.5% 【目標値】平成30年度：77% 平成31年度：77% 平成32年度：77% 平成33年度：77% 平成34年度：77% 平成35年度：77%)総被扶養者(総数計98/受診者数計75)								
3	既存(法定)	定期健康診断(被保険者)	全て	男女	19～39	被保険者	3	ア,イ,ク,ケ,シ	・医療機関への受診(各自で予約) ・年齢に関わらず、生活習慣病に関する検査項目で実施 ・5～8月に実施 ・一部費用を事業主で負担	ア,コ	・自己負担額なし ・HP、メール配信で案内(5月頃) ・就業時間内可能	5～8月年齢に関わらず、生活習慣病に関する検査項目で実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	健康状況の把握。健康維持と疾病の早期発見。	健診受診率の更なる向上 ・受診率は合計90.6%で単一健診計に比べて高く、国目標も達成している。 ・被保険者では、女性の60代以上の受診率が低い。 ・被扶養者の方が被保険者に比べて受診率が低い。
健診案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												受診率(【実績値】95.8% 【目標値】平成30年度：96% 平成31年度：96% 平成32年度：96% 平成33年度：96% 平成34年度：96% 平成35年度：96%)被保険者・任継(総数計479/受診者数計459)								
3	既存	定期健康診断(被扶養者)	全て	男女	19～39	被扶養者	1	ア,イ,ケ	・年齢に関わらず、生活習慣病に関する検査項目で実施	ス	・自宅宛に案内冊子を送付(5月頃) ・自己負担額なし ・H30年度より健診申込み期間を延長する ・H30年度より未申込者への受診勧奨実施(未申込みの理由ヒアリング)	5～8月年齢に関わらず、生活習慣病に関する検査項目で実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	健康状況の把握。健康維持と疾病の早期発見。	健診受診率の更なる向上 ・受診率は合計90.6%で単一健診計に比べて高く、国目標も達成している。 ・被保険者では、女性の60代以上の受診率が低い。 ・被扶養者の方が被保険者に比べて受診率が低い。
健診案内回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												受診率(【実績値】44.4% 【目標値】平成30年度：45% 平成31年度：45% 平成32年度：45% 平成33年度：45% 平成34年度：45% 平成35年度：45%)総被扶養者(総数計81/受診者数計36)								
												3,326								

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連				
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画										
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度			
アウトプット指標												アウトカム指標											
3	既存	がん検診：婦人科健診（子宮頸部細胞診・マンモグラフィまたは乳房エコー検査）	全て	女性	19～74	被保険者、被扶養者	1	ウ、ク、ケ、シ	・定期健診の無償メニューとして実施	ア、コ	・被保険者は就業時間内可 ・被保険者へはメール配信で案内、被扶養者へは案内冊子送付（5月頃）	定期健診の無償メニューとして実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	婦人科疾患の早期発見・早期治療、受診率の向上	がん検診受診率の更なる向上 ・新生物の医療費は、他健保計に比べ低いものの当健保の医療費では4番目に高い。				
がん検診案内回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												子宮頸がん受診率(【実績値】68.1% 【目標値】平成30年度：70% 平成31年度：70% 平成32年度：70% 平成33年度：70% 平成34年度：70% 平成35年度：70%)被保険者・被扶養者(子宮頸がん：総数計559/受診者数計380)											
-												乳がん受診率(【実績値】80.5% 【目標値】平成30年度：81% 平成31年度：81% 平成32年度：81% 平成33年度：81% 平成34年度：81% 平成35年度：81%)被保険者・被扶養者(乳がん：総数計559/受診者数計450)											
3	既存	がん検診：（胃部検査 エックス線または胃カメラ検査）	全て	男女	30～74	被保険者、被扶養者	1	ウ、ク、ケ、シ	・定期健診の無償メニューとして実施	ア、コス	・被保険者は就業時間内可 ・被保険者へはメール配信で案内、被扶養者へは案内冊子送付（5月頃）	定期健診の無償メニューとして実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	胃がんの早期発見・早期治療、受診率の向上	がん検診受診率の更なる向上 ・新生物の医療費は、他健保計に比べ低いものの当健保の医療費では4番目に高い。				
がん検診案内回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												受診率(【実績値】65% 【目標値】平成30年度：65.5% 平成31年度：65.5% 平成32年度：65.5% 平成33年度：65.5% 平成34年度：65.5% 平成35年度：65.5%)被保険者・被扶養者(総数計720/受診者468名)											
5	新規	栄養に関するセミナー実施	全て	男女	18～74	被保険者、被扶養者	1	ケ、シ	東京でのセミナー形式で実施予定（ランチセミナー等の検討）	ア、コ	メール配信で案内	新規実施（東京でのセミナー形式で実施予定）	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	加入者の食生活改善により、生活習慣等の疾病を予防する	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。 リスク保有者の重症化予防 ・特定健診レベル判定による非肥満者のリスク保有者は、被保険者男性と被保険者女性に一定数存在する。 ・内臓脂肪症候群該当者・予備軍は被保険者男性の55歳以降に多い。 ・「高血圧症」「糖尿病」の受診が必要な者の内、未受診者がいる。 ・受診中の「高血圧症」「糖尿病」でコントロール不良者がいる。 ・生活習慣病医療費では「人工透析」が高く、特に被保険者男性で突出して多い。糖尿病の重症化によることが予測される。				
セミナー実施回数(【実績値】- 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												セミナー参加人数(【実績値】- 【目標値】平成30年度：15人 平成31年度：15人 平成32年度：15人 平成33年度：15人 平成34年度：15人 平成35年度：15人)集合型は参加人数											
5	既存	禁煙支援	全て	男女	20～74	基準該当者	1	ケ	・禁煙外来を受診して規定のプログラムを終了した方に、費用の一部を補助。費用は上限1万円	ス	・HP、機関紙で案内	禁煙外来を受診して規定のプログラムを終了した方に、費用の一部を補助	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	喫煙・受動喫煙による疾病予防	喫煙率が高い ・男性被保険者は、他健保計・業態計に比べほぼ全ての年齢層で高い。 ・女性被保険者も、他健保計に比べほぼ全ての年齢層で高い。				
禁煙補助案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												喫煙率(【実績値】23.7% 【目標値】平成30年度：23% 平成31年度：23% 平成32年度：23% 平成33年度：23% 平成34年度：23% 平成35年度：23%)被保険者・被扶養者(総数864名/喫煙者205名)											
体育奨励	5	既存	フィットネス補助	全て	男女	0～74	被保険者、被扶養者	1	ア、ケ	ス	・HP、機関紙で周知 ・対象施設が多い ・施設によっては会員料金より更に安くなる ・補助制度の周知方法の検討が必要である ・利用者が固定化している	フィットネスクラブの利用料金の一部補助	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	加入者の運動習慣の機会提供と健康増進を図る	生活習慣病予防、医療費削減のためのリラクゼーション及びコミュニケーションの向上				
案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												利用率(【実績値】12.0% 【目標値】平成30年度：12.5% 平成31年度：12.5% 平成32年度：12.5% 平成33年度：12.5% 平成34年度：12.5% 平成35年度：12.5%)のべ人数/全加入者											
-												240											

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連													
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																			
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度												
アウトプット指標												アウトカム指標																				
	5	既存	スポーツ活動補助	全て	男女	0～74	被保険者	2	ア,ケ,シ	・被保険者1名以上を含む3名以上で構成された任意の団体が業務時間以外に行うスポーツ活動に対し、活動費用の一部補助を行う ・被保険者1名当たり上限4,000円の補助 ・対象は、施設利用料、大会・試合参加費用など	ア,ス	・HP、機関紙、カラダ測定会等のキャンペーンで周知	被保険者1名以上を含む3名以上で構成された任意の団体が業務時間以外に行うスポーツ活動に対し、活動費用の一部補助を行う	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	前年度の実施状況を振り返り実施方法等を確認し実施	運動習慣の無い加入者への運動機会の提供と健康増進を図る	生活習慣病予防、医療費削減のためのリラクゼーション及びコミュニケーションの向上												
案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												利用率(【実績値】9.3% 【目標値】平成30年度：9.5% 平成31年度：9.5% 平成32年度：9.5% 平成33年度：9.5% 平成34年度：9.5% 平成35年度：9.5%)のべ人数/全加入者																				
その他	8	既存	えらべる倶楽部	全て	男女	0～74	被保険者,被扶養者	1	ス	・HPから申し込みを行う	ス	・HP、機関紙で案内	HPから申し込みを	4,619	-	-	-	-	リフレッシュ、リラクゼーションの促進	健康意識の醸成 ・健診受診、がん検診受診率の向上を目指し、疾病の早期発見・早期治療につなげる。 ・生活習慣病に関する知識を増やし、疾病予防につなげる。 ・季節性感冒等、予防可能な疾病を予防する。 ・医療費についての理解を促す。 ・心身の不調を予防する。												
														案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 平成31年度：2回 平成32年度：2回 平成33年度：2回 平成34年度：2回 平成35年度：2回)-												登録率(【実績値】56.2% 【目標値】平成30年度：56.5% 平成31年度：56.5% 平成32年度：56.5% 平成33年度：56.5% 平成34年度：56.5% 平成35年度：56.5%)専用サイトパスワード登録率						
														8	既存	宿泊補助	全て	男女			18～74	被保険者	1	ス	・宿泊の利用料金の一部補助 ・HP えらべるクラブより施設を検索し申し込み ・1泊5000円まで、年間1万円の上限	ス	・HPで案内 ・被保険者の宿泊が必須	宿泊の利用料金の一部補助。HPのえらべるクラブより施設を検索し申し込み。	600	-	-	-
案内回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 平成31年度：1回 平成32年度：1回 平成33年度：1回 平成34年度：1回 平成35年度：1回)-												宿泊による健康度向上の検証が困難なため(アウトカムは設定されていません)																				

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用(情報提供でのICT活用など) オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施
キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築(産業医・産業保健師を除く) エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築
ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) サ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) シ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) ス. その他